原籍地　鶴岡市

實業家　大瀧由次郎

歌人

現住所　東京市芝區三田四國町二ノ一七

氏は明治二年十一月廿二日生。

氏が九歳の幼年の時、氏の父は紡績機械の發明に從事して居つたので、氏は幼少時代から筆紙に盡せぬ苦勞をなし、或時は大工の小僧、或時は寺男等の苦い經驗を嘗たのであつたが偶一縣會議員に其材能を認められ、年僅かに十九歳にして山形自由新聞記者として同社に入社するを得た。之れ氏が現在の地位に達した端緒とも云ふべきである。

明治廿三年上京、板垣伯、星亨等の經營せる自由新聞に轉じ、年少氣鋭の青年記者として活躍したが、同新聞が例の幸德事件で解散してから、氏は記者生活より轉じて現在の國文社に入り、漸次其頭角を現はし、爾來殆んど氏の一手經營となるに到つた。

氏は記者時代より文藝の趣味深く、御歌所寄人阪正臣先生の高弟である。其他書畫骨董を愛好し所藏の珍品尠からず。日本印刷インキ株式會社取締役を兼ぬ。

原籍地　鶴岡市

衆議院議員　熊谷直太

現住所　東京市麻布區本村町二〇九　電話高輪八六四番

正五位勳三等衆議院議員熊谷直太氏は慶應二年四月山形縣士族直能氏の長男として生る。明治卅年東京帝國大學法科大學卒業、判事に任ぜらる。

それより、前橋、東京、各地方裁判所判事に歷任。長崎、東京、各控訴院判事等に歷補し、後官を辭して辯護士開業。

更に實業方面にも敏腕を振ひ、日本倉庫株式會社、東亞火災保險株式會社兩取締役となり、後政界に活動し、山形縣五區より推されて代議士に當選する事四回、政友會領袖たり。曩に加藤高橋聯立内閣の時は司法大臣横田千之助の下に司法政務次官となる。

家族は夫人ヒサ子(明治九年生)との間に長男宣夫(明治廿三年生)長女元子(明治四十年生)次男均(明治四十一年生)三男伍郎の三男一女あり。

原籍地　鶴岡市七軒町甲九

東海電業社　社主　**村越良治**

現住所　東京市下谷區南稲荷町六四
電話下谷三七八五番

氏は明治廿三年二月十日生。
亡渡會彌兵衞氏三男、後故ありて村越姓を嗣ぐ。
郷里に於て小學教育を卒へ、北海道に移り、小樽中學校を卒業し、廿一歳にして出京、大正二年電氣學校高等科を卒業した。
卒業後沖商會に入り、大正五年東京電話電氣工業株式會社理事兼工務課長となる。
大正九年十二月より現在の場所に電氣機械器具製造電燈電力私設電話工事請負業を營み、東海電業社主となり、業務日に發展以て今日に到る。
工場は芝區染井町十二番地にあり。他遞信首公認私設電話工事店、東京電燈株式會社工事特約店、野島商會工事代理店を兼ぬ。
一子あり。東京市立第二中學在學。

原籍地　米澤市

加島銀行取締役　**江村忠之助**

現住所　東　市四谷區須賀町三〇
電話四谷三二七六番

氏は山形縣士族江村忠一郎氏の長息にして明治元年二月を以て誕生し、大正四年四月家督相續をなす。
夙に東上、東京帝國大學に學び、明治廿七年同校法科大學英法科を卒へ法學士たり。
後株式會社加島銀行に入り、幾干もなくして京都支店支配人たり、株式會社加島貯蓄銀行京都支店主任たり、更に加島銀行東京支店長を經て現今は同行取締役となる。
氏、頭腦明敏、よく實務に當りては刻苦精勵の人、今や東京銀行界一方の雄にして吾が郷縣人士の上流に位す。
因に氏の令閨はたけ子と呼ばれ、明治十年五月生。夫人との間に男千原(四十年生)女美都里(卅八年生)男千秋(四十三年生)女若薫(大正二年生)等あり。長女倭之枝及び三女八千枝は他に嫁せり。

原籍地　最上郡新庄町十日町二二六

食料品販賣業　**松田壽六郎**

現住所　東京府北豐島郡日暮里町日暮里三五五

氏は明治廿一年十二月廿日生。亡松田鐵治氏六男。

郷里に於て學業を修めた後大正六年迄製絲業に從事したが、此間大正四年大日本蠶絲會山形支部開催講習會で蠶絲學並に製絲法を修得し、同五年には、山形縣製絲同業組合囑托で農商務省蠶業試驗場福島支場、松本支場、一ノ宮支場、綾部支場、上田蠶絲專門學校等に就き一代交配蠶種に關する研究をした。

其後朝鮮に渡航し、京城に於て製糸繭販賣業を營み、大正十年には內地に歸つて精米學に從事したが、同十三年から現在の場所に食料品販賣業を開始し以て今日に及び業務逐日發展しつゝある。

氏は帝國在郷軍人會日暮里分會評議員、並に第一班幹部囑托第一班副班長である。

原籍地　米澤市

貴族院議員　**岡田文治**

現住所　東京府豐多摩郡落合村下落合中原五九二

從四位勳二等貴族院議員岡田文治氏の略歷を左に摘記して見やう。

明治七年一月生。士族清田長之助氏長男。岡田養質氏養子。

東京青山學院を出で、明治三十一年東京帝國大學法科選科卒業。文官高等試驗合格。

明治三十一年內務屬、沖繩縣參事官兼臨時土地整理事務長たり。

後、山形縣警察部長。同縣立病院事務取扱、千葉縣警察部長を經て新潟縣事務官、警視廳主事となる。

更に亦栃木縣知事に榮轉、樺太長官に榮轉し、警視總監となる。

その間各種の委員長、委員たり、帝國議會に政府委員たる事數回。大正二年貴族院議員に　選せらる。

家族は令閨しう子(明治十年三月生)男文雄(明治卅一年生)同周雄(卅四年生)女藤枝(四十二年生)男敬雄(四十年生)男晃雄(四十四年生)等。

原籍地　南村山郡上ノ山町鶴脛町四三九

官吏　**增戸秀雄**

現住所　東京市赤坂區青山南町六ノ三三

氏は明治廿八年五月廿六日生。
明治四十五年山形縣立米澤中學校卒業。
其後米澤高等工業學校に入り、大正八年同校應用化學科を卒業した。
卒業後東京モスリン會社に入る。
大正十年警視廳奉職、保安部建築課勤務以て今日に到る。
夫人都宜子との間に一男あり。
文學、美術に趣味を有し、寫眞術の造詣亦淺からずと聞く。

原籍地　山形市三日町七四

池袋病院長
醫學博士　**伊東常太郎**

現住所　東京府北豐島郡西巣鴨町堀ノ内四五

氏は明治廿年九月十三日生で、同市素封家清兵衛氏の弟。
明治卅八年山形縣立山形中學校を卒業、直に金澤第四高等學校二部に入り、同校卒業後帝大に入學、大正二年十二月東京帝國大學醫科を卒業した。
卒業後、大正三年より七年迄の四年半、大學病院青山内科勤務、同七年九月、西ノ宮回生病院内科部長として赴任し、同十年九月迄在職、同月上京して東大血清學教室に於て血清學を研究す。
大正十三年十二月博士號授與さる。
其後横濱に於て病院を經營せるが、業務發展の爲め更に東京市外池袋に病院を建築し、本年十月より院長として之が經營に從事す。
夫人由理子(二八)一男二女あり。

原籍地　北村山郡山口村

歯科醫　松田榮太郎

現住所　東京市麴町區土手三番町七

氏は元治元年十一月三日生。

開業以來既に三十年、歯科醫としての氏の信用は同方面に頗る厚いのは云ふまでもない。

刻下男太郎氏（東京歯科醫專大正十二年卒業）と共に普く診療に從事さる。

夫人かめ子との間に前記太郎氏（二五）の外、女道子（一九）あり。

氏が唯一の趣味は釣にして、閑を竊みては近郊に出で一竿の風月を樂む。

原籍地　西村山郡西根村大字日田

日本畫家　國井馨水

現住所　東京市小石川區大塚坂下町八八

氏幼にして繪畫を能くし、夙に明治畫壇の異彩寺崎廣業畫伯の門に入り、その才と修練の功は同門の逸才を以て目せられるに至つた。

氏の得意とする處は人物、花鳥、山水であり、一度筆を操れば畫面に詩情横溢尺縑の外にある程である。

氏さきに吾が日本畫壇の振はざるを慨き、その起源たる支那、印度に遊びて深く日本畫の奥義を究むるの志あり。志あれば風雲必ず來る。たま〳〵同郷の友渡邊恒太郎氏社用を帶びて同地方に渡るを幸ひ、共に彼地の人情、風俗を探り日本畫壇に貢獻する處多かつた。氏は一見非常に溫順の感あれどもその内面には火の如き熱情を持つ。

明治廿年四月十七日生、當年四十歳の働き盛りで、近來美術界以外、政界、事業界にも活躍して其敏腕を揮つて居る。

原籍地　山形市

椅子張業　**湊　新三郎**

現住所　東京市芝區愛宕下町四ノ四一

氏は明治廿年四月廿四日生

上京してから廿一年の長日月を閲して居る。其間氏は椅子張業に就て充分の研究をなし、大正五年に獨立開業した。

氏の技術の精巧と、懇切とが相待つて其營業日増し發展して居る。

氏の營業科目は椅子張、室内裝飾等の請負業で、使用人も十數人以上に上つて居るのを見ても其盛大さが看取される。

同業組合監事の要職にあり。

夫人鶴代子との間に五人の子女あり。

原籍地　米澤市

著述家　**本間久雄**

現住所　東京市小石川區雜司ヶ谷町四四四

吾が郷土が生んだ出色の文學者本間久雄氏。氏は明治十九年十月生れ。

明治卅八年米澤中學校卒業。明治四十二年早稲田大學英文科卒業。

大正七年早稲田大學の講師となりて現在に及ぶ。

著書數十種、『現代の思潮及文學』『近代文學の研究』『近代藝術論解說』『生活の藝術化』『婦人問題十講』等。

現在は早大講師の外に早稲田文學主宰として文壇に貢獻され、英國近代文學及び英國近世思想等の研究に沒頭さる。

趣味は骨董、性溫順、夫人美枝子(三十四歳)との間に久美子(十四歳)清香(十歳)の二女あり。

原籍地　東置賜郡屋代村

實業家　伊藤喜助

現住所　東京市本所區松井町一ノ二

氏は明治二十三年三月二十四日生。

東京市立商業學校卒業の後、藏前高等工業學校有機化學科を專攻した。同時に製革科、染色科をも研鑽した。

現今は木炭卸商として活躍し、常盤生命保險會社代理店をも引受けて居る。

嘗ては獨逸輸入工業藥品、染料等の販賣をしたこともあつた。又獨逸商會の囑托となつたこともある。

氏は年少時代より絶えず社會の風浪と闘つた。十幾歳にして樺太に單獨に渡航したるが如き以て氏の意氣の如何に旺盛であつたかゞ看取される。

氏は豪放磊落、好箇の活動的事業家である。

原籍地　米澤市信夫町五五九三

鐵道官吏　藤崎泰藏

現住所　東京府北豐島郡日暮里町日暮里五一鐵道官舍

東京山手線日暮里驛助役藤崎氏も羽前米澤の生れ。

氏が鐵道省官吏としての振り出しは大正三年三月である。卽ち上野驛の車掌拜命。大正五年四月撰ばれて大宮驛の助役となる。出役してよりその間三年。その出世の早きを以て氏の手腕は察せられるであらう。

後、白岡＝桶川の助役を經て大正十二年一月日暮里驛に赴任。氏が一つの驛の長となる日も遠くはあるまい。

明治廿年六月一日誕生。

原籍地　山形市旅籠町

袴商　上西三四郎

現住所　東京市本所區吉田町一

氏は明治十五年十月二十三日生。明治四十二年に上京し、日本橋の呉服卸商店に入り、備に呉服物に就て實地研究をなし、他日獨立して商店を作るの準備をした。翌四十三年卽ち豫ての素志通り獨立して袴商店を開業し、袴生地、仕立物の販賣をなし、附近の信用厚く、從つて營業日增しに繁昌しつゝあり。

氏は東京袴商同業組合役員たり。政治方面にも多大の興味を持つ。從つて該方面の智識亦造詣淺からず。

原籍地　東京府豐多摩郡野方町新井六二一

土木建築請負業並木材販賣業

現住所　原籍地

電話四谷七三二四番

川勝保

氏は明治廿三年三月四日生、原籍地は東京になつて居るが、本縣西村山郡左澤町出生で、幼時山形市豪商長谷川吉内氏に就て商業を見習ひ、其後上京して日本大學法科に入り、同校を卒業した後、松方五郎氏經營の東海生命保險會社内勤員として勤務、社長の信任する所となり、朝鮮、滿洲、支那の主任として該地に在勤すること數年、少からぬ好成績を擧げた。然も進んで倦まざる氏は俸給生活に滿足せず、同社を辭して國光ゴム株式會社を創立し、自ら經營の任に當つたが、時利あらず遂に失敗し、搗てゞ加へて新宿大火で類燒の厄に遇ふの悲運に際會したが氏は更に屈せず、酒田製材株式會社を背景とし、材木商兼土木建築請負業を開業し、既に七年の歲月を經て順調なる發展を遂げ、諸官署を初め知名の士に信用厚く、營業日增しに繁昌して居る。

豐多摩郡材木商組合長、新井同志會副會長、趣味は都山流尺八、二男一女あり。

原籍地　米澤市
國際汽船會社長　**黑川新次郎**
現住所　東京市麻布區材木町五五　電話青山六三一一番

元日本郵船の社長として腕を鳴らした黑川氏は金井正進氏の三男、山形縣士族。明治八年七月生れで先代陽太郎氏養子となり明治十九年六月家督相續す。東京青山學院高等科の出身。直ちに日本郵船株式會社に入り、海外の支店に在る事多年、大正二年本店に歸り、外航課主事となる。後轉じて神戸支店長たり、神戸商業會議所特別議員たり。更に累進して日本郵船副社長たり、次で社長として敏腕を揮ふ。

尙氏は曩に日獨講和會議の際其の隨員たりし事あり、功に依りて勳五等に叙され今日に至る。

家族は夫人かね子（明治十七年七月生れ。兵庫縣士族石川申一郎氏長女）及び男正雄（明治卅六年五月生）女千賀子（明治卅八年生）男信雄（四十年生）清雄（四十三年生）澄雄（四十四年生）博雄（大正三年生）忠雄（五年生）義雄（七年生）の六男一女あり。

原籍地　東京市神田區錦町三ノ二三
寫眞製版印刷業　**菅野久**
現住所　東京府北豐島郡瀧野川町西ヶ原六八

氏は山形市出身で、明治十六年一月四日生。明治卅五年上京、三ヶ年間寫版製版印刷業を見習ひ、其後獨立開業したが、氏の熱心努力と、且つは其熟練せる技巧とが多大の信用を世間に博し、營業日に增し繁昌しつゝあり。

原籍地　山形市小姓町
椅子製造業　**山本勇**
現住所　東京市小石川區指ヶ谷町一〇九

明治卅四年十月七日生。大正五年上京。手廣く椅子製造業に從事し營業逐日盛大に發展しつつあり。

原籍地　西田川郡加茂町

米穀商　**本間幸右衛門**

現住所　東京市京橋區越前堀二ノ一
電話京橋四九二七番

氏は明治四年三月十日生。
明治卅一年上京。
警視廳に入り、時に水上警察に勤務したることあり、帝都警察官としての氏の經歴も相當に久しいものであつた。
大正元年から官界生活を思ひ切り、米穀商を營む。庄内は元來本縣中唯一の米産地、氏が鄕縣と連絡をとつて米穀販賣業を營んだのは慥に時宜を得たものであつて、其の今日の成功を見るに到つたも偶然でない。
功勳に依り賞勳局から大典記念章を授與さる。

原籍地　北村山郡楯岡町

支那研究家　**喜早收治**

現住所　東京市小石川區竹早町七〇

氏は明治廿五年七月廿八日生れで、明治四十五年山形縣立新庄中學校を卒業した。
大正四年歩兵少尉に任官された氏は所澤航空學校、伊太利各種飛行學校、陸軍大學校を卒業した陸軍部内の一偉才である。
歐洲大戰當時は伊國戰線に參加し、主として航空勤務に從事した。西伯利戰役にも氏は亦戰線に就いて活動した。
大正十四年には航空兵大尉として豫備役となつたが、同年暮張廓が滿洲で鎬を削つた時に、廓松齡の軍事顧問として行動し、新民屯の一戰で郭が敗れてから、一先づ歸朝したが、近く又再渡支の計畫あり、今後の氏の行動は大に刮目に値する。
趣味は運動競技の方面、尺八。

原籍地　東置賜郡宮内町

材木商　**清水吉助**

現住所　東京市下谷區龍泉寺町一八九
電話淺草三三二四四番

氏は明治十八年五月十八日生。
藤兵衛氏次男。
明治四十年十二月上京。
深川區佐賀町外米商安部幸商店に入り、備に商取引の實地に就て研習した。
其後獨立して明治四十三年から現在の場所に材木商を營み、材木商山五清水商店と云へば同方面で信用、實力共に充分のものとして評判が良い。
氏は嘗て龍泉寺町東部町會長、第一回國勢調査員、東京市勢調査員、第二回國勢調査委員たり現在は東部町會顧問、東京市方面委員、下谷區教育會評議員の榮職にあり。

原籍地　東田川郡狩川村狩川

巣鴨腦病院長　**石川貞吉**

現住所　東京府北豐島郡瀧野川町六三三
電話小石川四二七番

私立巣鴨腦病院長石川貞吉氏は醫學博士にして石川養貞氏の長男、藤井健治郎氏の令兄にして明治二年十二月の誕生。廿七年には家督相續せり。
郷里の小中學を出づるや都門の人となり、獨逸協會學校を經て第一高等學校に入り進んで明治廿四年東京帝國大學に學び、同廿九年醫科大學の業を卒えたり。後山形市立濟生館副館長に任じ、同時に山形市醫に任ぜられ、更に卅二年靜岡縣富士病院長に赴任せしも君尚學是れ足れりとせず、再度上京し、翌年東京帝國大學大學院に入り、吳博士の下に精神病學及び病的心理を研究し、傍ら帝國大學助手、府立巣鴨病院醫員たり、後更に保養院、警視廳、鐵道院醫員、私立大學講師、帝國大學醫學會講師を經て明治四十五年醫博となる。現今は私立巣鴨腦病院長として其の温厚親美の人格を慕はれる。夫人は繁恵子と呼び、三男三女あり。

原籍地　山形市七日町五二五

會社重役　**駒谷龜之助**

現住所　東京市芝區高輪南町三八
電話高輪二八四番

氏は明治十六年四月五日生。

明治三十二年十七歳の時に志を立てて上京し、三十五歳に到る迄株式業を營み、其間實業家として他日飛躍するの素地を充分に作つた。

其後石炭採掘販賣業を開業し、業務益發展するを見たが、大正九年東京市に於て砂利事業の有望なるに着目し、同年から砂利事業に着手した。

現在は多摩川砂利合資會社代表社員、六鄕砂利株式會社取締役社長として斯界に活躍して居る。

氏は全く活動的の現代人である。其前途刮目して見るべし。

原籍地　鶴岡市大寶寺町

著述家　**齊藤松太郎**

現住所　東京市下谷區池ノ端七軒町七〇

氏は明治十二年一月廿二日生。

齋藤鐵藏氏次男。

明治卅三年國學院卒業。

卒業後中學校に教鞭を取りたるも、其後雜誌實業之世界に入り『九州の現在及將來』を編輯し、同誌に少からず異彩を添えたのは讀書子の今尙記憶に新なる所である。

赤水と號す。

後實業世界を去りて氏は編輯主任となり群書類從を出版す。其他日本史籍協會に入り史籍の編輯に從事す。

氏今や庄内維新史料の採拾に從事す。切に大成を祈る。

原籍地　山形市香澄町横町南一五八

歯科醫　**堺田顯能**

現住所　東京市本郷區駒込西片町八
電話小石川一八八八番

明治廿年四月十日生。
郷縣山形縣立山形中學校卒業後、東京歯科醫專門學校に入り、同校卒業、日本大學歯科醫學士の稱號を得。大正六年、現在の地に開業し、患者の信用厚く、逐日發展しつゝあり。

原籍地　東田川郡狩川村狩川

洋畫家　**石川吉次郎**

現住所　東京府瀧野川町田端六三三

明治廿七年五月六日生、石川醫博の男。
大正十二年四月東京美術學校洋畫科卒業。
爾來自宅にて更に熟心に研究を續けて居る。
氏はバラ門社（畫社同人）創立の一人。前途多望なる洋畫界の新人。

原籍地　東村山郡大郷村

辯護士　**牧野與吉**

現住所　東京市牛込區甲良町二〇
電話牛込三四二六番

氏は明治廿一年生、廿一歳の時山形縣巡査を拜命したが、少時より秀才な氏は先輩や同僚を抜いて忽ち巡査部長、警部補と昇進し大正六年には縣警察部より拔擢せられ內務省警察練習所に入り、全國百人の練習生中五番の成績を擧げた。
大正八年刑事講習會に上京して大に感ずる所あり、直に警察官を辭して上京し日本大學に入り、傍ら同校高等研究科に學び、首席で卒業し、大正十一年には辯護士試驗に及第し辯護士を開業して今日に到る。
氏は山形縣警察官在任當時、縣會議員疑獄事件や、養父殺し等の檢擧取調べで名聲を謳はれたが、今は少壯辯護士の一人として大に前途を期待さる。
夫人るい子との間に二男あり、趣味は讀書。

原籍地　山形市旅籠町五八一

土木建築請負業　**高橋英八**

現住所　東京市日本橋區濱町一ノ一

氏は明治廿九年八月廿六日生。
山形縣立米澤工業學校建築科卒業。
卒業後直に日本絹撚株式會社に入社し、其後山形市に建築設計信用事務所を開業し多大の信用を博した。
大正十二年東都大震火災に遭遇するや氏は上京して錦組に入つた。錦組は安田銀行を主なる得意として居る土木建築請負業者である。氏は此處で充分其手腕を發揮する所があつた。
其後現在の場所で、土木建築請負及設計等を開業し、以て今日に到る。
太平生命保險會社代理店。
財團法人國士館建築顧問。

原籍地　鶴岡市

繃帶材料、分娩用具製造販賣業　**阿部五助**

現住所　東京市小石川區茗荷谷町六〇
電話小石川三四二一番

氏は元治元年正月十四日生。
明治卅三年上京。
中澤倉庫部に勤務。
同卅六年現在の場所に繃帶材料（精製綿、精製ガーゼ其他一斑）分娩用具製造販賣業を開始して、今日に到る。
防寒チョッキ一名ニコ〳〵チョッキ（實用新案第八九六四一號）は氏の製造販賣に係り好評あり。
創業日既に久しく、氏の商店は逐日更に堅實に發展しつつあるを見る。

原籍地　米澤市

時計商　**矢島源次**

現住所　東京市下谷區西黒門町四
電話下谷六四〇七番

氏は明治廿一年三月生。
十六年前に上京した氏は間もなく獨立して現在の場所に時計商を開業し、努力黽勉以て今日の盛大を來した。
氏の工場は名古屋市中區東雲町にあり、東京本店には十數人の店員を使用して居る。殊にリバー掛時計製造卸は氏の商店獨特のものとして好評を博して居る。
夫人ともよ子との間に四男一女あり。
書畫骨董に趣味を有し、圍碁將棋に造詣深き多趣味の人である。

原籍地　西村山郡本道寺村本道寺

佐藤吉

慶應二年二月四日生。
徴兵適齢にて近衛歩兵第二聯隊入營、軍曹となる。日清戰爭には山東省、臺灣に轉戰勳八等に叙さる。明治卅五年より八年間砲兵工廠に勤務其後鑛山業、砂金採取業等に從事す。
男一人、女一人ある。趣味は圍碁。

現住所　東京府北豐島郡西巣鴨町向
原三五一〇

原籍地　西村山郡本道寺村本道寺

印刷業　**佐藤昇**

明治卅三年三月三日生。藤吉氏男大正元年博文館印刷學校に入り、同二年卒業、博文館印刷技工の免狀を受け、三ヶ年同館に勤務す。
目下中外印刷株式會社に勤務し、傍ら現在の場所にて印刷業を經營す。男子一人あり。

現住所　東京府北豐島郡西巣鴨町向
原三五一〇

原籍地　鶴岡市

實業家　**本間良太郎**

現住所　東京市小石川區竹早町七二

氏は明治廿年一月五日生。

明治四十年上京。

同四十四年早稲田大學經濟科卒業。

卒業後氏は種々の事業方面に活躍された。鐵道方面では福島縣會津沼尻、川衍間の輕鐵敷設を計畫し、出版業では中等學校教科書の出版に從事し、其他染料製造業、ナット（銅鐵製）製造會社の經營に專心したこともある。

刻下靴製造會社を創立し、之が經營に從事しつつあり。

極めて活動的、進取的の人材。

原籍地　西村山郡柴橋村

土木建築請負業　**高橋震治**

現住所　東京市淺草區新谷町一四

電話淺草五六二一番
七八六五番

氏は明治廿八年五月二十日生。

秋田大林區署に勤務したことがある。氏が土木建築業者として今日の成功を見るべき素質は此時代より充分に蓄へられて居つたのである。

大正五年上京、爾來高橋組代表者として土木建築請負業に從事したが、營業日增しに發展、遂に今日の盛大を見て居る。

氏は東京土木建築請負業組合理事を勤務す。以て氏が如何に斯界に信用厚きかと云ふことが分る。

原籍地　鶴岡市

醫　和田　倜

現住所　東京市小石川區大塚坂下町一一一

氏は明治十五年三月廿一日生。

札幌中學校卒業。

其後金澤高等學校に入り、同校を經て東京帝國大學醫學部卒業。

卒業後直に北海道旭川市に醫師開業、同地方官民に多大の信用を博した。

昨十四年上京。

原籍地　山形市香澄町八幡石四九ノ一

會社員　前田良男

現住所　東京府荏原郡大森町二四六六

氏は明治廿五年七月廿一日生。

山形縣立山形中學校卒業。

進んで東京高等工業學校に入り、大正四年同校機械科を卒業。

同年十月大森町日本特殊鋼合資會社の設立せらるゝに當り、氏は乞はれて同社に入り爾來十餘年間技師又は技師長として同社の發展に努力し、同社に取りては唯一の功勞者として信用厚し。同社が今日の發展を見るに到れる、氏の參畫設計宜しきを得たる結果が其一原因たるや云ふまでもない。

氏は山形縣廳に永く奉職された前田辰二郎氏の長男。

原籍地　南村山郡上ノ山町

寫眞業　田中藤二郎

現住所　東京市本所區北二葉町九青山寫眞館　電話墨田五三三五番

氏は明治廿六年二月十五日生。

大正六年氏の年齢僅かに十六の時、前青山寫眞館主青山忠助氏に其品性と美術的天才とを見込まれて上京し、爾來大正十二年迄恩師の下に助手として働いて居つたが、偶十二年の大震火災で不幸忠助氏は死亡された。で忠助氏の遺族を始め周圍の人々の懇望に依り此の責任の重い青山寫眞館の經營を引受くることゝなり以て今日に到る。

氏が熱心努力は現在の青山寫眞館をして前館主存命當時にも劣らぬ繁榮振りを示して居る。未だ二十を越して間もない白面の一少年たる氏にして此の成果を見るは全く其の誠實なる努力の賜物と云ふの外はない。

顧客は東京市内各官公衙、學校方面、或は遠く郡部方面からも來る。

原籍地　西村山郡大谷村大谷

辯護士　大谷悌吉

現住所　東京市日本橋區蠣殼町三ノ一二　電話浪花長一二二三番

氏は明治十九年八月廿六日生。

山形縣立山形中學校卒業。

仙臺第二高等學校に入り、明治四十五年七月同校卒業。

其後東京帝國大學に進み、大正八年同大學英法科を卒業した。

刻下辯護士開業。

氏は磊落豪放の資、然も圓轉滑脱の才分を有す。將來の大成期して待つべきものあらんか。

原籍地　東村山郡天童町

酒類販賣業　**神保幸左衛門**

明治廿八年十二月五日生。
神保清助氏の養嗣子となり、東都大震災後、即ち大正十三年から東京に出て酒類卸小賣業を開始し今日に到る。

現住所　東京市淺草區田町一ノ三八

山形市で有名な虎屋の支店である。逐日營業の發展し來るも無理はない。
氏は何よりも商賣第一の極めて着實にして熱心の人である。

原籍地　西村山郡東五百川村杉山

書籍商　**長岡作次郎**

明治十五年十月廿日生。
大正五年上京。
辭書文藝物其他各般の書籍を取扱ひ、漸次發展して今日の盛業を見るに到る。

現住所　東京市神田區表猿樂町二

氏は最も着實穩健の人物で、然も不斷の活動家である。

原籍地　東京市小石川區指ヶ谷町四九

文部省囑託　**木崎盛政**

現住所　原籍地

氏は慶應三年一月廿六日生、戸籍は東京だが山形市の出身である。
明治十七年山形中等師範學校卒業。
其後上京して參謀本部附屬測量製圖學校に入り同校を卒業した。
氏は此の學歴から教育地圖を作製したが、之れ我國の民間で始めて教育地圖の發表された嚆矢である。尙現在學校教科書地圖は氏が始めて作製し、文部省が之を基礎として毎年其以來作製を續けて居るものである。
目下教育政治地圖研究會なるものを組織し、登山家用山嶽地圖を作製し、登山家に非常の利便を與へて居る。

原籍地　鶴岡市

時事新報記者　**安倍季雄**

現住所　東京市小石川區茗荷谷町一六

氏は明治十三年九月七日生。

童話作家の安倍季雄氏と云へば、日本全國に誰知らぬものもない有名な作家、然も我山形縣鶴岡市出身である。

明治四十一年時事新報社に入社し、以て今日に到る。

其著作中有名なのは『花の咲くまで』『實になるまで』(實演童話)『愛の故郷』『林檎の花瓣』『母のおもかげ』(七色文庫)『バットの響』『ホームラン』『光榮の勝利』で最近のは『芽の出づる迄』等である。

原籍地　鶴岡市

醫　**佐川安治**

現住所　東京市小石川區大塚坂下町四六

電話小石川二五四五番

氏は明治七年八月廿四日生。

山形縣立庄内中學校出身。

明治卅二年第二高等學校醫學部卒業。

其後海軍に入り、大正六年迄海軍々醫として就職。

同年辭職。

引續き現在の場所に醫師開業。

老熟せる氏の技倆が患者の厚い信用を買ふたのは勿論のことである。

原籍地　北村山郡楯岡町

衆議院議員
都新聞社取締役

松岡俊三

現住所　東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町原宿一七〇

電話青山二二八〇番

政友會少壯代議士の錚々、然も田中總裁の最直參たる松岡俊三氏は本縣楯岡村川伊平氏長男、明治十三年七月十四日の出生である。郷里楯岡町尋常高等小學校卒業後、淨土宗教校並に本校を卒業し、次で日本法律學校專門部を履修した。明治卅三年徴兵として近衛歩兵第三聯隊に入隊、三ヶ年現役に就き、明治卅七八年の日露戰役に從軍し卅八回の戰鬪に從事し、遼陽戰では右大腿貫通銃創を受けた。

明治四十年都新聞社に入りて政治記者となり、同四十四年列國都市狀態視察を東京市より囑託せられ米國及英佛獨各國を視察し、大正元年支那に赴き、同二年東部西伯利亞内蒙古地方を視察した。同八年都新聞社の組織變更と共に氏は入りて副社長の重職に就く。

大正十年華盛頓平和會議には横田全權と共に同地に赴く。

選出代議士たりしが、先年細梅氏の後を受け本縣より選まれて代議士となる。氏は栃木縣政友會の重要幹部たるは勿論、資性豪宕思慮周匝にして辯舌に富み、多大の未來を有する少壯政治家の一人。

原籍地　西村山郡谷地町

實業家　平泉民雄

現住所　東京市牛込區若松町一〇四

明治十二年八月生。

山形縣立山形中學校卒業。

其後慶應義塾理財科にて經濟を專攻し出京して實業に從事し以て今日に到る。

原籍地　西村山郡左澤町

公吏　佐野久夫

現住所　東京府荏原郡世田ヶ谷町三宿七一

明治卅一年二月十日生。

山形縣立山形中學校卒業。大正十一年早稲田大學政治科を卒業す。

直に東京市役所に勤務以て今日に到る。

原籍地　西村山郡西五百川村太郎

日本橋病院理事　**長岡善次郎**

現住所　東京市芝區三田四國町二ノ一號

明治十三年六月廿三日生。

同卅年三月日本橋區日本橋病院に入り、以て今日に到り、現在は同病院理事の重職を占む。

氏は更に藥劑師たるの免狀を有す。最も堅實にして信頼すべき好事務家。

原籍地　山形市旅籠町五六七

銀行員　**木村達也**

現住所　東京府豐多摩郡淀橋町柏木一〇二〇

明治廿九年九月廿九日生。

山形縣立山形中學校卒業。其後早稲田大學入學。

大正十二年同大學法科卒業。直に安田銀行に入り、以て今日に到る。

原籍地　鶴岡市寶町

彫刻鑄造業　**齊藤作吉**

現住所　東京府北豐島郡西巣鴨町池袋大原一三八六

氏は明治九年十月十一日生。

明治四十一年三月東京美術學校鑄造科を卒業した。

同四十二年朝鮮李王家より聘せられ、同家の美術工場に入り、氏獨特の技倆を發揮した。

大正十年歸京。

現在彫刻鑄造業を開始し、一班の希望に應じて居る。

氏は光蓮と號し、高村光雲氏の高弟である。

原籍地　東村山郡天童町

教育家　高梨惣助

現住所　東京府荏原郡品川町五ノ四一九

東京府に於る奏任待遇校長の一人として有名なる城南尋常小學校長高梨惣助氏は本縣東村山郡天童町出身。明治十八年十八歳未滿にして同縣師範學校初等師範學科の試驗を受け合格者三名中の首位を占め、其後直に師範學校入學同廿一年七月同校卒業直に東村山郡尋常高等小學校訓導となり。廿五年五月校長に昇進し、廿八年十一月同郡々書記となり、郡視學事務取扱を命ぜられ、卅一年四月專任郡視學となり、同郡の小學教育頗る振ひ嶄然として縣下に頭角を現はす。卅四年五月東京府荏原尋常高等小學校訓導兼校長に轉任、大正四年二月十一日文部大臣より小學校教育功勞者として選奬され、同時に品川町會亦感謝狀並に銀盃一組を送る。六年十月卅日奏任待遇となる。七年十月卅日叙從七位。九年十月卅日學制頒布五十年に際し府より表彰さる。十年十一月廿日教育功勞者として皇太子殿下に拜謁。十二年三月十六日東京少年審判所少年保護司となる。十四年九月十日叙勳六等。十五年三月十三日十七日奏任待遇。十五年七月十六日叙正七位。長男利助氏帝大醫科在學中なり。

原籍地　山形市香澄町小鶴一三〇

城南堂主　土屋宏

現住所　東京府荏原郡品川町南品川五ノ一八〇

氏は明治十六年六月廿日生。

永く山形地方裁判所判事たりし土屋安久氏の息。

山形縣師範學校出身。

卒業後山形市第三尋常小學校を振り出しに、縣内外五箇所の小學校に教鞭を執ること前後約十餘年、我國の普通教育界に貢献せし處少からず。就中深川靈岸小學校在職中大に貧民兒童教育に努力せるは特筆に値す。

其後國民新聞社に入る。

明治四十四年現在の場所に新刊圖書、月刊雜誌、教科用書文具一式販賣店城南堂を開店し、世間は勿論、同業者間の信用も非常に厚い。

原籍地　南村山郡上ノ山町

鐵工場主　**山川與志**

現住所　東京府南葛飾郡龜井戸町七ノ三

氏は明治十一年二月三日生。

龜井戸方面で鐵の大工場を經營して居る山川氏は本縣上ノ山の出身である。

機械類一斑の製作を盛大に營業して居るが、氏は今日の成功に慊らず、更に一層事業擴張の計畫をして居る。

原籍地　米澤市上花澤仲町

常盤生命保險株式會社
調査課長　**山中純一**

現住所　東京府荏原郡大井町鹿島村三〇七七

氏は明治十七年九月廿六日生。

鄉縣の有力家山中久馬氏男。

山形縣立米澤中學校第三學年修業。

次に山形縣師範學校乙種講習科を卒業し、出京の上東京物理學校に入り、遂に同校を卒業した。

同校卒業後、大正二年常盤生命保險株式會社の設立せらるゝや氏は入りて數理課長を振り出しに、漸次重要地位に就き、現今は調査課長の重職を占むるに到る。氏は最も數理の才に長じ、好箇敏腕の事務家として社内外に信用厚し。

原籍地　東村山郡天童町
會社員　園部知雄
現住所　東京府北豐島郡瀧野川町南谷端二〇八七

明治廿七年四月生。
氏は中學より大學迄高等教育を受け、特に獨逸語に巧みである。
刻下ドクトル、カール、フォーグト事務所に入り、其敏腕を揮ひつゝある。

原籍地　東置賜郡宮内町
銀行員　江口親憲
現住所　東京府荏原郡大崎町桐ヶ谷一九一

明治卅二年二月十一日生。
山形縣立山形中學校卒業。第二高等學校を經て、東京帝國大學に入り、同大學法科卒業。直に安田銀行に入る。
現在は同行銀座支店勤務たり。

原籍地　鶴岡市鷹匠町甲六
辯護士　伊藤克寛
現住所　東京市下谷區上野櫻木町三五
電話下谷　五七七〇番

氏は明治十五年三月廿三日生。克施氏長男。克施氏は縣立前の庄内中學校創立に就て多大の功勞のあつた人、今日の縣立庄内中學校の基礎は氏に依つて成つたと云ふも過言でない。
山形縣立庄内中學校出身。
續いて第二高等學校を經て東京帝國大學に入り、大正五年同大學獨逸法律科を卒業した。
其後辯護士開業今日に到る。

原籍地　東村山郡山寺村

米穀問屋　**東海林儀三郎**

現住所　東京府豐多摩郡代々幡町代々木新町五二

氏は明治廿年六月卅日生。

明治四十二年八月上京。大久保で米穀業の實地修業をなし、他日自己獨立の際の準備と智識とを充分に蓄ふることが出來た。

大正二年に到つて現在の場所に米穀問屋及精白米業を獨立して開業し以て今日に到る。

氏は非常に奮鬪家で且つ活動家である。氏が代々木の一角に米穀商として嶄然一頭角を現はして居るのも決して偶然ではない。

氏は他に東京白米商同業組合豐多摩十三部組合長の重職にある。

子二人あり。

原籍地　東村山郡天童町

東京獸醫學校教官　**佐藤豐信**

現住所　東京市牛込區市ヶ谷臺町一三

氏は明治廿四年五月八日生。

大正六年三月東京獸醫學校本科卒業。

同九年三月東京獸醫學校研究科修業。

其後同校評議員。並同校教員となり大に同校の發展の爲めに盡しつゝあり。

然も氏は更に之を以て滿足せず、大正十二年三月早稲田大學商學部本科に入り、目下在學中である。以て氏の如何に研究慾に内心燃え立ちつゝあるを見るに足る。

原籍地　飽海郡上郷村山寺

辯護士　齊藤富治

現住所　東京市下谷區竹町二四

電話下谷六二九七番

氏は明治廿一年一月十日生

同四十三年上京、警視廳巡査拜命。

同三年巡査部長となり、同七年警部補となる。

かくて氏は此の奉職時代に孜々として法學の研磨切磋を重ね、同八年には辯護士試驗に合格した。

翌九年辯護士開業以て今日に到る。

氏は斯の如く獨力獨行で其の運命を開拓した人、從つて其の辯護士として事件の取扱振りも一種獨特の人間味を發揮して居る。

原籍地　東村山郡山邊町

海産物仲買人　石田太四郎

現住所　東京市日本橋區南小田原町一三

氏は明治廿年八月廿四日生。

高橋太左衞門氏三男、後故ありて石田姓を嗣ぐ。

山形縣立山形中學校卒業後、仙臺第二高等學校に入學したが、家事の都合で中途退學し、兵役に服し、除隊後郷里にあつて家業に從事した。

大正元年志を立てゝ上京、海産物肥料商を開業したが、更に海産物仲買の有望なるに着目し、大正三年から東京魚市場海産物仲買人となり、以て今日に到る。

氏の屋號は丸松と稱す。

原籍地　東京市下谷區谷中三崎町三三

東洋美術作興社主　**川崎鐵夫**

現住所　原籍地

氏の籍は東京にあるが、本縣西村山郡白岩町の出身。
明治十九年八月十五日生。
開成中學校卒業。
其後日本大學に入り、同大學卒業後、銀行生活約十餘年を送つたが、現在では前記の場所に東洋美術（繪畫彫刻）作興社を經營し今日に到る。
因に氏の實弟川崎繁夫氏は文展、帝展九回入選、朝倉文夫氏の高弟であつたが一昨年卅三歳にして可惜病死された。夫人富子其後を追ふて毒死したのは當時世間で有名な話であつた。朝倉氏は其情を悲しみ兩人の爲めに淺草永住町に比翼塚を建設した。師弟間の情誼濃やかなる一美談として之亦廣く世に傳へらる。

原籍地　飽海郡松嶺町本町四八

兩羽館主　**齊藤壽彦**

現住所　東京市本郷區眞砂町二五

電話小石川六八八〇番

氏は明治卅四年五月十八日生。
大正九年山形縣立庄内中學校卒業。
直に上京して川端龍子の經營に成る川端畫學校に學ぶ。
震災後一時歸國したが大正十五年七月再び上京、旅館業開業の準備をなし、九月一日から旅館兼下宿業兩羽館を開業した。
氏の兩羽館は亞細亞館（山形人經營）を繼承し、之に萬般の改善を加へたもので從つて山形縣人の得意が多く、尙今後も一層增加することゝ思はれる。
男一人あり。川端學校に入つた位氏の唯一の趣味は油繪である。

原籍地　鶴岡市七日町甲四
元馬術教官　中村正毅
現住所　東京市下谷區坂本町二ノ一一

明治十六年四月十日生。
元馬術教官

原籍地　西村山郡川土居村沼山
銀行員　荒木恕
現住所　東京府豐多摩郡千駄谷町千駄谷五三四

明治廿五年十二月廿五日生。
大正二年宇都宮下野中學校卒業。
同七年仙臺第二高等學校卒業。
同十年東京市帝國大學經濟學科を卒業、直に第百銀行に入る。
目下同行本店檢査部勤務。

原籍地　米澤市
豐島工務所員　齊藤春吉
現住所　東京府北豐島郡王子町王子六〇二

氏は明治卅一年四月十五日生。
米澤商業學校を大正三年に卒業。
其後中央大學に入學。
同大學經濟科卒業後東京遞信局に勤務したが、大正十一年同局を辭職した。
其後獨立して機械商を營む。
現在は豐島工務所に入り、建築設計等の事業に從事しつゝあり。

原籍地　山形市下條町一〇五五

東京建業社主

永野紋三郎

營業所　東京市日本橋區元大工町一二

出張所　横濱市平沼町二ノ二九

現住所　神奈川縣鶴見町生麥四七

氏は明治廿五年一月廿一日生。

明治四十三年三月山形中學校卒業。

大正二年七月東京高等工業學校卒業。

其後直に横濱製鋼株式會社に入り、同十一年支配人に拔擢せられ、經營の任に當りたるも、大正十二年同社が東京製鋼會社と合併決定せらるゝと同時に同社を辭した。

爾來現在の場所に東京建業社を創立し、建築、土木、設計監督請負業を獨力で經營し、開業日尚淺きに拘はらず、營業逐日堅實に發展しつゝあり。

妻よし子は最上郡金山町岸伊兵衛氏三女、弟紋一郎氏は東京帝國大學農學部在學中。

原籍地　米澤市

豐島工務所員

齊藤貞治

現住所　東京府北豐島郡板橋町下板橋七一〇

氏は明治廿八年の生、今年卅二歳の働き盛りである。

大正二年上京。

東京上野藥學校に入り、同校を卒業した。

其後北豐島工務所に入り、同所の事業を經營して居る。

北豐島奬工會理事たり。

原籍地　東村山郡鈴川村

印刷業　**太田喜一郎**

現住所　東京府荏原郡平塚町下窪蛇二一四

氏は明治廿二年十二月十三日生。
幼年時代より郷里に於て活版業を見習ひ、充分其技工に達した。
大正十二年上京。
中央新聞、讀賣新聞社活版部を經て、目下東京日日新聞社活版部在勤。
他日獨立して印刷業開業の準備をなして居る。

原籍地　東村山郡天童町甲七〇

豫備工兵大佐　**後藤利一郎**

現住所　東京府豐多摩郡淀橋町柏木一四一

氏は明治六年三月廿日生。
山形中學校の前身山形縣立尋常中學校卒業。
陸軍士官學校に入り、明治廿九年卒業。
同卅年陸軍工兵少尉に任ぜられ、更に陸軍砲工學校に入り之を卒業した。
同卅六年工兵大尉として陸軍士官學校教官となる。
明治卅八年より支那遠世凱に招致され北洋武備學堂教官となり四十一年一月迄彼地に滞在した。
大正八年西伯利亞に遠征し、中佐に進み、翌九年工兵大佐に昇進す。
同十一年電信隊第一聯隊附となり、同十二年三月待命。
功勳に依り勳三等旭日章、勳三等瑞寶章を叙授さる。
氏は讀書を好み、觀世流の謠曲を能くす。長男氣球隊附工兵中尉。

原籍地　西村山郡高松村谷澤

官吏　加藤正道

現住所　東京府荏原郡平塚町小山五〇〇ノ一
電話高輪三一〇七番

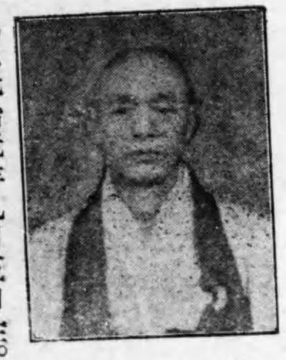
氏は明治十八年十二月十二日生。
山形縣立山形中學校卒業。
高等學校を經て東京帝國大學に入り、大正二年同大學英法科を卒業した。
後官界に身を投じ、戰時保險官に任ぜられ、後農商務省事務官に轉じ、鑛山局に勤務す。
目下農商務特許局在勤。

原籍地　西村山郡谷地町

酒卸小賣業　石川眞吉

現住所　東京府豐多摩郡大久保町東大久保五二六
電話四谷六三七八番

明治廿五年九月五日生。
同卅九年上京。
長く酒類の卸小賣業に從事して居らるゝが氏の誠實にして巧妙な商賣振りは氏の商店をさして今日の盛大を來さしめ、同業者間にも信用頗る厚し。
氏は他に幾多の公職、名譽職を有し、同業者の利益增進に常に努力さる。



原籍地　東田川郡東榮村平足南田二六

宗教家　**太田祖傳**

現住所　東京市麻布區三河臺町五

氏は元治元年九月五日生。

明治廿年三月曹洞宗大學入學、卒業の上歸省し、鶴岡市曹洞宗總穩寺住職として地方教界に貢獻する所少からず。

同卅七年上京。

曹洞宗々務院、鶴見本山總持寺へ勤務したことあり、大正十四年七月辭任し今は閑地にある。

然も氏は鄕里壇家上京中の家庭を訪問し、法悅の醒醐味を一斑に頒つことに努力しつゝあり。

子女なく、草花を栽培し、悠々自適、老を養ふ。

原籍地　東村山郡天童町

村井銀行員　**芹澤友吉**

現住所　東京市芝區白金三光町四七四

氏は慶應六年三月廿四日生。

村井合名重役松原重榮氏弟にして、明治三年芹澤家養子となる。

明治十八年出京。

明治法律學校に入り、同廿三年七月同校を卒業す。

明治卅八年株式會社村井銀行に入り、幾くもなくして庶務課長の榮職に就き、刻下更に同行幹部の重要なる位置を占むるに到る。

夫人チウ子との間に五子あり。

原籍地　東村山郡山邊町

彫塑家　**石川確治**

現住所　東京府北豊島郡日暮里町渡邊町一〇四〇

氏は明治十四年八月八日生。

理右衛門氏三男。

幼より手技を能くし、東京美術學校に入り明治卅九年同校彫刻科卒業、更に研究科に入學、同四十二年迄在學。

爾後彫塑の研究に精進し、第四回文展に褒狀を得たるを手始めに、入選數回、各種展覽會に出品して受賞したるもの頗る多く、後特選となり、氏の木彫は毎秋の帝展に出品せられ、帝展の一異彩たり。從つて彫塑家としての氏の地位も亦我國幾指を屈する大家の一人となるに到る。

夫人は故帝室技藝委員石川光明氏の女。

閨秀畫家にして丹麗と稱す。

因に氏は帝國美術院展覽會委員たり。

原籍地　東京市四谷區簞笥町九五

尺八大家　**川瀬順輔**

現住所　原籍地（電話四谷四六七六番）

氏は明治三年十月十日生。

戸籍は東京市になつて居るが純然たる山形市香澄町出身。

十七歳の時より尺八に志し、其後出京、東京音樂學校主事故上原虚洞師に就て熱心に尺八を修業した。其後全國を廻遊し、更に斯道の奥義を極め今では誰知らぬものもない有名な尺八の大家である。

間拍子附點の新樂譜を普及して斯界の一大革新を劃したのは氏の後昆に傳ふべき一大事業である。尺八雜誌「竹友」を發刊し常に斯道の普及を謀る。從つて氏の門を出た有數の尺八大家は全國到る所にある。

夫人は生田流箏曲の大家。

原籍地　鶴岡市

日本畫家　山口將吉郎

現住所　東京市下谷區谷中眞島町一ノ五號

明治廿九年三月卅日生。

東京美術學校日本畫科の出身。

專ら子供雜誌等に執筆しつゝあるが、更に大作の作成に心血を注ぎつゝあり。

原籍地　西村山郡左澤町

綿布商　富樫米藏

現住所　東京市神田區元佐久間町一三

明治十六年十一月八日出生。

嘗て獨逸協會中學に入る。

其後鄕里に於て家業に從事しつゝあつたが大正三年より東京に於て綿布商を營み、其の如才ない交際振りと、誠實の取引は氏の營業をして日增し繁昌せしめつゝあり。

原籍地　南村山郡本庄村關根一二九

豐島工務所主　鏡源三郎

現住所　東京府北豐島郡高田町雜司ヶ谷五二八

氏は明治十二年十二月一日生。

明治四十四年八月警視廳巡査拜命。

大正十二年二月依願免職。

其後現在の場所に豐島工務所を開業し、以て今日に到る。

建築設計、出願代理等を以て其主要なる業務とし尙北豐島奬工會を設立し、各工場の出願及び諸屆に關する業務に從事す。

氏の堅實なる營業方法は開業日尙淺きにも拘はらず。着々順調に發展しつゝあり。

事務所＝市外高田町千登世三一（高田警察署筋向）

原籍地　南村山郡上ノ山町鶴脛町

實業家　**河合貞助**

現住所　東京市牛込區築地町一六

電話牛込二二〇番

氏は明治十九年十一月十六日生。

明治卅九年に上京し、一時自動車製作業に従事した。

其後土地開墾事業の有望なるに着目し、此方面の經營に全力を傾到して居る。従つて氏の所有に係る土地は各地到る所頗る多い。

代表的開墾地としては調布町、館山町等にある。氏の開墾に依つて地方の繁榮が増加したことは氏の事業の成功を物語る一挿話である。

氏は刻下本縣谷地町方面に温泉開墾事業計畫中である。其他東京を中心とした地方に多くの温泉を之れまで開掘して居る。

原籍地　鶴岡市

病院長　**塙繁彌太**

現住所　東京市日本橋區數寄屋町一

電話大手三八一番

氏は明治九年七月廿八日生。

明治卅三年醫術開業試驗合格。

續いて東大醫科大學專科に入り、内科學を專攻し、東大皮膚科教室助補となる。同卅七年辭職、其後傳研にあること一ヶ年、同卅八年關東州民政署醫務囑託、同四十年滿鐵大連病院に轉じ皮膚科を擔任した。

明治四十三年獨逸に留學し、研學の功を積み、大正元年歸朝、同九年に到り大連醫院皮膚醫長奉天南清區學堂教授を辭し、東京に歸り獨立塙病院を開業し以て今日に到る。

大正七年八月學位論文『表皮中に於けるグリコーゲン及びエライゲンの知見』九大審査で醫學博士號を授與さる。

原籍地　東村山郡天童町

醫院主　花輪忠男

現住所　東京市芝區神谷町一八　電話青山三六五三番

氏は明治九年十一月廿六日生。

明治廿九年十一月醫術開業試驗に合格。

同卅一年二月海軍少軍醫候補生となる。

同年海軍々醫學校入學。

大正六年十二月海軍々醫大佐に昇進、同年八月豫備役編入。

氏の經歷は大體右の通りであるが明治卅三年北清事變、卅七、八年の日露戰役、歐洲戰役等には何れも從軍して殊勳を擧げて居る。勳三等旭日章、同瑞寶章は氏の當年の武勳を物語る。

刻下花輪醫院開業、患者の信用厚し。

男三人あり。長男は一高、次男芝中學、三男府立四中在學。

原籍地　南村山郡本澤村

土木建築請負業　山口吉三郎

現住所　東京府荏原郡世田ヶ谷町若林五二六

氏は明治十三年五月十一日生。

鄉里に於て家業に從事して居つた氏は、明治卅五年志を立てゝ上京、土木建築請負業を開業した。

同卅八年大阪に行き、同地に於て引續き土木建築請負をやつて居つたが、大正十二年東京大震災後直に上京、再び東京で從前の事業を開始し、今日に到る。

氏は工博横川爲助氏の處で土木建築に關する研究をしたのだから、其技術の優秀なるは論なく、從つて得意の信用も厚い。

氏は本業の外、山口式實用便器（新案特許七二五六號）を考案製作、尙鐵筋コンクリート煙突考案製作中である。

原籍地　西村山郡川土居村吉川

土木請負業　**阿部正次郎**

現住所　東京府豐多摩郡澁谷町下澁谷七三三

郷里の小學校を終つた後、上京して岩倉鐵道學校に入學。同校を卒業して日本運送株式會社に勤務し、他日實業界に活動するの素地を充分に作つた。

大正九年土木請負業山形組に入り、獨立して土木請負業を開始した。

氏氣宇極めて濶達、然も誠實と周匝なる思慮とを以て事業を經營して居るのであるから、氏の事業が漸次確實に發達し來つたのも無理はない、從つて一班世人の信用も亦厚い。

原籍地　飽海郡内郷村下餅山

會社員　**佐藤多治郎**

現住所　東京府北豐島郡瀧野川町田端二三二

氏は明治卅一年四月一日生。

山形縣立庄内中學校卒業。

大正八年上京。

早稲田大學法學部英法科に入り、大正十三年卒業。

直に仁壽生命保險株式會社東京支店に入る。

外務課に勤務し以て今日に到る。

氏は明治卅四年四月三日生。刻苦勉勵、大正十二年には藥劑師檢定試驗に合格した。目下オリエント寫眞工業株式會社在勤、氏の得意の方面を受持ち大に活躍つしゝあり。

原籍地　山形市十日町四八〇

會社員　桑原政藏

現住所　東京府北豊島郡長崎村西向三六九二

原籍地　山形市旅籠町四六八

銀行員　渡邊達太郎

現住所　東京府豊多摩郡代々幡町安田銀行寄宿舍

氏は明治卅年十月卅日生。大正六年山形縣立山形中學校卒業。大正十二年慶應義塾大學經濟部卒業。同年安田保善社に入り。更に安田銀行に轉ず。翌十三年安田銀行神田支店に轉勤し、以て今日に到る。前途多望の青年銀行家。

原籍地　北村山郡大富村

辯護士　**長瀨秀吉**

現住所　東京市神田區五軒町一四

氏は明治廿五年九月六日生。
大正九年七月中央大學法科卒業。
直に辯護士試驗に應じ、一回で之をパスした程の秀才であつた。
辯護士開業。
事務所は京橋區南紺屋町實業ビルヂング五階(電話京橋六〇八六番)にあり。
氏は青年時代には頗る苦學力行した。而して成功した。今日でも研學の念一日も止まず今尙斯界の權威者花岡博士に師事して研究に餘念ない程の篤學者である。

原籍地　飽海郡松嶺町新屋敷

銅鐵物問屋　**齊藤恕巳**

現住所　東京市日本橋區通旅籠町一
電話浪花二三四三番

氏は明治廿六年九月十二日生。
山形縣立庄內中學校出身。
明治四十五年上京。
大正二年東京商科大學に入り、同六年之を卒業した。
卒業後三井物產株式會社に入り本店金物部に勤務したが、大正十二年に同社を退き
現在の場所に獨立開業し、以て今日に到る。
男子一人あり。商店々員は八名、以て氏の事業の目ざましき發展を見るに足る。
銅鐵物問屋としてトタン平板、生子板、丸釘、針金等を專門に取扱ふ。

原籍地　北村山郡大石田町
會社重役

田中一策

現住所　東京府豐多摩郡戸塚町源兵衛七〇
電話牛込　三四〇一番

氏は明治十五年十二月廿一日生。
山形縣立山形中學校卒業、高等學校を經て京都帝國大學入學。
明治四十年同大學法律科卒業。
其後實業界に飛躍し、最近まで大日本信託株式會社專務たりしが、近來は兩羽電氣株式會社專務取締役として專心同社の經營に努力して居る。
山形縣に於る電氣事業の發達は近來目ざましきものあり。東北唯一と云ふよりも恐らくは全國でも有數なものであろう。然も之を牛耳るものは山形電氣株式會社で宛然電氣王として他會社に君臨して居るが、之と少くとも將來對抗の地位に立つ資格のあるものは、何と云つても氏の經營する兩羽電氣株式會社に外ならない、從つて氏の責務も亦重い。

原籍地　西村山郡寒河江町
會社重役

大久保才介

現住所　東京府荏原郡大崎町桐ヶ谷三七〇
電話高輪四五四番

氏は明治廿一年二月廿七日生。
山形縣立山形中學校卒業。
仙臺第二高等學校を經て、東京帝國大學に入學。
大正四年同大學法科卒業。
直にオリエンタル寫眞工業株式會社に入社、熱心に同社事業の發展に努力した。
其後日本塗紙工業株式會社を現住所に創立し、氏自ら其の常務取締役として經營に從事し、創立日尚淺きに拘はらず、多大の發展を見るに到つた。
同社製品の種類はパラフイン紙、ワックス紙、各種防水防蟲紙、ジユピター、ウキルソ印筆記用兩面カーボン紙、アカシア印タイプライター用片面カーボン紙等である。

氏は明治卅年六月廿一日生。
大正八年三月廿五日東京府立豐島師範學校を卒業。
其後東京府下の目黑小學校に奉職し以て今日に到る。
春秋に富む未來ある好箇の敎育家。

原籍地　北村山郡戸澤村白鳥八六
敎育家　太田三郎
現住所　東京府荏原郡大崎町居木橋一六七

原籍地　東京市本郷區元町二ノ六六
日本畫家　太瀧正治
現住所　東京市本郷區弓町一ノ二五

氏は明治四年二月廿三日生。
戸籍は東京市にあるが、氏は本縣の溫柔鄉鶴岡市高畑町の出身である。
號雨山。
文展入選二回、今上天皇御前揮毫二回、宮内省御買上一回、其他諸所の畫會での褒賞は頗る多い。
此の簡單な事實が如何に氏が美術家としての現在の地位を立派に物語つて居るではないか。

原籍地　西田川村郡大山町

日本畫家　**大瀧太郎**

現住所　東京市下谷區谷中坂町三五

氏は明治七年二月十二日生。

號月窓。

山水、人物を能くす。

各方面の畫會で褒賞を得ること無數。

嘗て宮内省御買上の光榮を得。

氏は人格圓滿、そゞろに美術家の襟度を偲ばしむ。

原籍地　飽海郡松嶺町内町三五

蒟蒻製造業　**林省吾**

現住所　東京市本郷區五丁目九

電話小石川三六七七番

氏は明治廿二年三月廿三日生。

明治四十年志を立て上京、正則英語學校及び大原簿記學校に學ぶ。之れ氏が學歴の一班である。

同四十五年支那に渡り、秋田縣出身小山田繁三郎氏(目下獨逸留學中)の下に電氣瓦斯事業に從事し、大に成績を擧げた。

大正二年歸朝。表記の處に蒟蒻製造販賣業の有望なるを認め之を開業し。以て今日に到る。然も營業は逐日發展の途に就きつゝあり。

氏は東京市及府下十五郡同業組合副組長にして更に本郷區五丁目青年會長たり。

男子二人、女子四人あり。

原籍地　西村山郡左澤町左澤一〇〇

醫事新聞記者　**瀧口正**

現住所　東京府北豐島郡瀧野川町田端三五

氏は明治七年七月七日生。

氏の先考昌水氏は。左澤の一開業醫であつたが、其交遊極めて廣く、政治上、事業上同地方の重鎮、人格の士として一班に敬愛せられたものである。

氏も亦常識の圓滿に發達した人格の士で、從つて交遊亦多く、此點は更に先考を辱しめざるものあり。

刻下醫事新聞編輯を主宰し、醫事衞生の發達に少からぬ貢献をして居る。

夫人は藥劑師の免許狀を有す。氏の現住所に於て藥種店を營み、之れ亦信用厚し。

原籍地　山形市横町一九九

官吏　**藤田友作**

明治廿九年一月生。

大正五年山形縣立山形中學校を卒業し、其後東京外國語學校に入り、大正九年同校佛蘭西語部貿易科を卒業。

現住所　東京府豐多摩郡野方町下沼袋一二九

其後、內閣統計局國際課勤務、以て今日に到る。

原籍地　東村山郡天童町

官吏　**佐竹義利**

慶應三年十二月廿四日生。

照藏氏三男、明治卅七年出京。大藏省煙草專賣所に入り、同廿九年辭職。

日本鐵道會社に入り、工務課勤務、明治四十一年淺草區役所に入り、學務課勤、務以て今日に到る。

現住所　東京市下谷區北稻荷町二七

三男二女あり。

原籍地　東村山郡天童町田鶴町

寫眞業　**大武丈夫**

現住所　東京市麴町區有樂町一ノ三
電話大手五二二五番

大武丈夫氏は鄕土出身の斯業成功者。

幼くして寫眞術に興味あり、最初仙臺市に於て小規模の獨立經營をなし、明治四十二年上京、更に斯道に苦心研究を重ね、四十二年には宮內省の御用を拜命する程の成功を見た。

大正七年三月、東京寫眞同業組合副組長を農商務省から任命。

平和博覽會に於ては銀杯受領の光榮を得。大正十一年獨乙ベルリン世界技術者展覽會に出品萬國に於ての十五人中に當選。

夫人との間に男子六人、女子三人あり。趣味として古今書簡を集むることで、既に三千名の古書簡を蒐集してある。就中大隈侯、小村侯、古河市兵衞氏の珍書あり。特に古河氏のものは日本に二つの珍書にして、將來は博物館等に展覽して萬人の縱覽に供せん心組みもあり。明治十年十一月十一日誕生。

原籍地　南村山郡上ノ山裏町二八

靴製造販賣業　**村上藤藏**

現住所：東京市小石川區指ケ谷町九三

氏は明治廿二年十月十日生。

權吉氏の三男で、鄕里で小學校卒業後、明治卅六年仙臺市に出で靴製造に就て二ケ年許實地習業した。

同卅八年出京。

更に技術を磨いて明治四十四年本鄕區湯島で靴製造販賣業を開始したが、震災後右の場所に移轉し、昇天の勢を以て其營業が發展して居る。

氏は極めて誠實な營業方法を取つて居るので、女子高等師範。府立各女學校、小松川女學校、東洋女學校、女子學院、英和女學校等の御用商店として信用が篤い。

原籍地　山形市十日町四六二

井上侯爵家執事　村井太郎

現住所　東京市麻布區宮村町四二井上侯邸內

氏は明治廿年四月十六日生。
明治卅八年山形縣立山形中學校卒業。
同四十年十二月陸軍歩兵少尉任官。
山形歩兵第卅二聯隊勤務。
同四十三年朝鮮守備隊に赴任し、二ヶ年間同地に滯在す。
同年陸軍歩兵中尉に昇進。
大正七年大尉となる。
同八年七月臺灣歩兵第一聯隊赴任。
同十三年陸軍歩兵少佐に進級。
同年三月辭任。同時に上京して井上候爵家執事に就職し以て今日に到る。

原籍地　山形市十日町四八〇

會社重役　桑原源吉

現住所　東京府北豊島郡南千住町
地方橋場町一二五一
三鱗石炭株式會社隅田川支店內
電話淺草一二八七番

氏は明治廿四年八月六日生。
同四十三年三月山形中學校卒業。
中學卒業後、兵役に服して入營したが除隊後。即ち大正二年から三鱗合資會社運送部に入つた。之れ氏が今日の地位を作るに到つた登龍門の第一歩である。
同八年七月には現在の三鱗石炭株式會社に入り常務取締役、飯田町、隅田川兩支店長兼務として活躍し、更に中屋商事株式會社の常務取締を兼ねて居る、
南千住の三鱗と云へば有名な石炭店で、主として三井物產に取引を有し、石炭の外コークス其他の燃料も取扱つて居る。
本縣出身實業家中鐵中の錚々たるものゝ一人である。

原籍地　南村山郡堀田村字郷

自轉車材料商　**斯波忠八郎**

現住所　東京市神田區末廣町一〇

氏は卅二年二月生れの廿七歳。氏の如き若さで此の大東京に獨立營業をなす。氏の性格何人も察せられるであらう。

氏も亦學校出ではない。大正十年上京、府下池袋尾形鑄物工場に入り時の來るを待つた。

大正十三年二月神田區、即現住所に自轉車材料商を始め今日に至る。

販賣先は市内市外を通じて廣く且つ多い。

劍道に趣味を有す。

男一人、女子一人ある。

原籍地　山形市小姓町一ノ一四

傘履物商　**伊藤長治郎**

現住所　東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷二八五

氏亦獨立獨行の人。

明治四十一年上京す。

大正十二年迄傘履物の製造業を營み、現在に於ては小賣業を兼營。

家族としては夫婦の外に男子一人。召便四人の盛大な商店。澁谷道玄坂の中途目抜きの場所にある。

明治十八年二月生。

原籍地　飽海郡松嶺町荒町三七

新炭商　**加藤鉄三**

現住所　東京市淺草區象潟町五

氏は明治十七年、十二月一日生。

明治卅七年。廿歳そこ〳〵の弱冠にして上京、帝國貯蓄銀行に勤務したが間もなく徴兵適齢となつて山形第卅二聯隊に入營、日露戰役に從軍し、同卅九年に歸國し、戰役の功に依り勳八等旭日章を賜はる。

軍隊を出てから大正十二年迄金融業を營み、少からず其資產を增殖したが、震災後は生活必需品たる薪炭業の有望なるに着目し、同業を開業し以て今日に到る。店員二人と共に日夜活動し、從つて營業逐日發展しつゝあり。

氏は帝國在鄕軍人會淺草分會長及班長に歷任し、目下帝國在鄕軍人會名譽會員たり。

原籍地　山形市香澄町

遞信省技師　**高津清**

現住所　東京市牛込區原町一ノ六七　電話牛込二一〇一番

正四位勳四等、遞信省技師、遞信省電氣試驗所長、高津清氏の略歷。

明治十四年二月十四日生。同四月一日家督相續。先代高津肥富氏の長男。山形縣立山形中學校卒業後、第二高等學校を經て東京帝國大學に入り明治卅八年七月同大學工科大學電氣工學科卒業。

その後明治卅九年六月遞信技師に任官。

明治四十一年五月電氣事業研究の爲め米獨兩國に留學を命ぜられ、明治四十二年八月歸朝。

大正六年二月電氣局電氣試驗所第一部長となり七年六月電氣試驗所技師、兼遞信技師に任官。大正十二年同所長に昇進以て今日に到る。

夫人瓊子（明治廿一年四月生、玉江文太郎氏長女）長男清一（明治四十三年生）女靜子（明治四十一年生）同孝子（明治四十二年生）同智子（大正四年生）等。

原籍地　東村山郡山邊町

土木建築請負業　**新目（しんめ）健十郎**

現住所　東京市麻布區田島町五九
電話高輪七七二三番

明治廿二年三月傳助氏次男に生れ、後分家して一家を創立す。當年卅八歳の活動盛りである。氏幼にして學術衆に秀で既に鄕里山邊小學校在學中郡賞を授與され、又五年間組長を勤めた程であつた。十七歳にして斷然志を立てゝ上京。苦學奮鬪すること三年間、後土木建築請負業橋本組に入り、刻苦精勵、斯業を研究すること十年有餘、各方面の信用を得、獨立して土木建築業を開業した。大正八年七月三井經營の炭礦福岡縣田川郡伊田町三井田川鑛業所に入り、上下の信用を得、會社及勞働者共同組織の共愛組合の勞働者代表又は相談役等に選ばれ、又伊田町よりは第七區の組長に選ばれ大に社會の爲めに盡した。大正十三年四月上京再び土木建築請負業を開業、逐日發展す

氏は任俠篤實の士、業務に對しては極めて責任觀念が強い。從て各方面に信用厚し。

原籍地　仙臺市

醫　**宮島義男**

現住所　東京府荏原郡目黑町下目黑四九七
電話高輪三八七五番

氏は明治十三年九月生で、嘗て山形地方で有名な漢學者であつた宮島昇先生の次男である。

山形縣師範學校附屬小學校卒業、其後山形縣立山形中學校に入り、宮城縣立中學校に轉じ、更に第二高等學校を經て東京帝國大學に入り、明治卅八年十二月同大學醫科を卒業した。

大學卒業後、宮城縣石卷病院長、山形市至誠堂病院內科醫長、宮城縣技師、衞生課長歷任、更に大正三年から海外にある古河護謨園病院長として赴任し、大正八年歸朝した。

歸朝後大日本麥酒株式會社の囑託醫となり、傍ら醫師を開業したが、昨十四年十月現在の場所に病院を新築、主として內科小兒科を診療さる。

堅實の人格の持主で、懇切鄭寧、從つて患者の信用頗る厚し。

原籍地　飽海郡松嶺町内町一七

製果業　豐田寶

現住所　東京府豐多摩郡大久保町百人町一九四

電話四谷五九二四番

製果業界の成功者豐田氏を紹介する事は縣人協會の喜びである。

氏は山形師範卒業後直ちに上京、東京高工機械科（教員養成所）に入學、大正四年三月卒業、高知工業學校へ教授として任命。

大正六年志を轉じ、小松鐵工所に入り、大正八年上京、貴族院議員山崎龜吉氏經營の尙工社に轉じ、時計製作業に從事し、大正十二年自ら双葉製菓所を創立し今日に到る。

夫人との間に男子三人（十二才。十才。四才）あり。

因に氏は明治廿三年生れの少壯である。

原籍地　西村山郡白岩町

醫師　佐藤文司

現住所　東京府北豐島郡日暮里町金杉一三二四

明治廿三年五月十八日誕生。

明治四十二年三月十八日新庄中學卒業。

日本醫學專門學校卒業。

後日暮里金杉に內科、小兒科專門の醫院を開業された佐藤氏の經歷を見るに右の如くである。

氏は溫厚、寡默の人。遠近の隣人、及び患者の信用厚く日夜往宅診に忙殺されて居られる。

原籍地　南村山郡本澤村前明石二六九

辯護士　**内海英吉**

現住所　東京市本郷區湯島天神町三ノ一
電話下谷一八七二番

氏は明治元年六月一日生。

夙に出京して明治法律學校、法學院卒業、間もなく高等文官試驗に合格した。

然も氏は之に滿足せず、明治卅二年更に判檢事登用試驗に及第し、最も鮮やかな秀才振りを見せた。

其後大藏省に入り、臨時秩祿處分調査局事務官、稅務監督局事務官等に歷補し、韓國に航して韓國度支部書記官、同檢査官等に任ぜられ、正七位に叙せられ、賞勳局より金盃一箇を賜はる。又韓國併合記念章、同國勳四等、同卽位記念章等を下賜された。

明治四十三年歸朝。

後官界を去り大正六年深川區東元町に辯護士を開業したが、其後現在の場所に移轉し辯護士業を繼續して今日に到る。

原籍地　鶴岡市高町二六

陸軍三等樂長　**辻順治**

現住所　東京市麻布區霞町二三

陸軍戸山學校敎官兼研究部々員、陸軍三等軍樂長辻順治氏を吾が同鄕人として紹介し得るのは喜ばしい事である。

氏は明治卅四年十二月一日を以て陸軍戸山學校に入學したのを振り出しに、四十三年には日英博覽會に吾が國の音樂を紹介するの目的を立てた陸軍當局から選ばれて英國に派遣され、略一ヶ年彼地に滯在して居られた。しかも、一ヶ年の滯在中六ヶ月は日英博覽會に於て奏樂を勤め、他の四ヶ月音樂に就ての見學。歸朝後、今日は陸軍三等軍樂長として戸山學校に得意の技倆を發揮しつゝある。

明治十五年七月一日誕生、夫人との間に一女あり、現在女學校二年在學。

氏はさすが音樂家だけあつて常に情緒の柔かな人で、初對面の印象は恰度美しい奏樂のメロデーの中に在る心地がする。

原籍地　西村山郡谷地町

辯護士　**兼子歡治郎**

現住所　東京市日本橋區本銀町四ノ一三
電話大手一一二三番

明治廿四年の日本法律學校卒業生名簿の中に兼子歡治郎氏の姓名がある。即ち現辯護士兼子氏の卵であつた。

翌年の廿五年には氏は判檢事登用試驗に合格して居る。現今私立大學の法科卒業生が判檢事の試驗に幾度もドロップするのを見ても氏の才能は判るであらう。然かも氏は卅六年四月から辯護士の獨立開業をして居る。現在に於ては主に民事を得意とされて居る。

氏は才氣煥發、大正十一年九月に東京府會議員に選出された程の行政的手腕家でもある。

明治八年の誕生、長兄一氏は帝大法科在學、二男の宙氏は山形高校在學中、二氏とも親似の俊才。殊に二男寅氏は十六才にして既に山高に入學した程の秀才である。

原籍地　南村山郡山元村一四二二

會社員　**川合仲司**

現住所　東京府北豊島郡南千住町地方橋場町
一二五一

三鱗石炭株式會社隅田川支店内

氏は明治廿四年三月誕生、當年とつて卅六才の男盛りである。出身學校は明治四十三年三月山形中學卒業、他に殆んど學歴らしいものはない。即ち獨立獨行の人である。

大正二年上京、あらゆる刻苦を忍び、大正九年三鱗石炭株式會社に勤務。今日に至つて居る。性東北男兒らしい豪放の人、よく社内外の信用厚し。

原籍地　東村山郡天童町五〇三

建築請負業　**佐藤清藏**

現住所　東京市本所區南二葉町三

東京本所區に建築請負業を開業される佐藤氏、氏は明治廿七年天童町に生れた。幼にして性豪放、長ずるに及び郷里に於て建築請負業を營みしが、その氏の性は遂に郷里に於てのみの成功に滿足出來なかつた。即ち大正十三年上京。府下東中野にて手腕自信ある同業を經營す。

大正十四年七月考ふる處あり、現住所に移轉、同業繼續、今日の隆盛を見る。若手事業家としての氏の手腕囑望するに足るべきものがある。

原籍地　山形市七日町

歯科醫　**門脇初代**

現住所　東京府荏原郡大森町谷戸二六四四

明治卅一年十一月一日生、門脇龜吉氏長女。

山形師範學校附屬小學校卒業、鶴岡女學校に入り、同校卒業後は出京し吉岡彌生女史の女子醫學專門學校を第三學年迄履修し、其れより東京女子歯科醫學專門學校に轉じ同校卒業、文部省檢定試驗にパスし大正十四年歯科醫たるの資格を得た。

本年に到り現在の場所に開業したが、更に餘暇を以て女子醫學專門學校に通學し、普通醫師たるの準備をなして居る。妹二人、其一人は明治藥學校通學、姉妹互に相勵まして他日の大成を期して居る。

父龜吉氏は南村山郡瀧山村出身で、山形で有名な牛肉店門脇周司氏の養子となり、刻下東京に於て陸軍御用商人として活動して居られる。

原籍地　鶴岡市

醫　森　繁　吉

現住所　東京市京橋區築地一ノ六

明治六年一月十六日生。山口縣立山田中學校を卒業し、山口高等學校を經て東京帝國大學醫科に入る。明治卅五年同大學醫科卒業醫學士となる。明治卅七年迄帝大青山内科に勤務されて居つたが、其後獨立醫師開業、以て今日に到る。

原籍地　東京市京橋區築地一ノ五

築地活版所　中　村　市　藏

現住所　原籍地

明治十六年十月三日生。戸籍は東京市にあるが本縣西田川郡出身である。庄内中學校卒業。明治卅六年上京、築地活版所に勤務す。

原籍地　西置賜郡長井町一四〇七

西洋家具製造販賣　長　田　代　吉

現住所　東京市小石川區指ヶ谷町二二

氏は獨立獨行の人。明治十二年三月十五日生。久しく山形市にて指物家具製作に從事。大正六年上京小石川區指ヶ谷町に現在の西洋家具製造販賣業を始め、奮闘努力、事業繁榮を極め、今日に至る。重に椅子、卓子、室内裝飾具。鐵道省御用商人なり、現在東京西洋家具同業組合小石川區役員。先に大正十三年東京全市西洋家具組合役員たりし事あり。二女あり。

尙明治卅九年四月一日賞勳局より陸軍工兵軍曹なる氏に勳七等青色桐葉章を授與さる。

原籍地　山形市材木町四ノ七
土木建築請負業　酒井親一
現住所　東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷元廣尾八一

氏は明治九年六月一日生。
土木建築請負業として盛大に現在の場所に開業しつゝある氏も嘗ては臺灣總督府の一官吏となつたことがある。然も局課は土木局であつたから、氏は此の官界生活時代に於て他日土木建築界に雄飛するの素地を充分に作つた。
後官を辭し明治四十三年より臺灣臺北市に於て土木建築請負業を營み、少からぬ好成績を擧げた。
大正十二年志を立てゝ上京、現在の地に開業、逐日昇天の勢を以て發展しつゝあり。
高砂土木合資會社の代表社員である。

原籍地　東京市神田區通新石町六
繩莚商　安孫子彌助
現住所　原籍地

氏の生地は西村山郡寒河江町である。明治四十四年上京し繩莚商を始め、現在地に籍を置き、全く帝都の人となつた。
氏の商店は繩莚の外に麻紐があり、廣く各地に卸小賣をなす。
現在は神田區在郷軍人會第八班長として人望を近隣に高からしめて居る。
明治廿八年五月廿二日生。
極めて確實にして信用を重んずる人。

原籍地　山形市旅籠町五三五

實業家　渡邊恒太郎

現住所　東京府豐多摩郡戸塚町下戸塚三五〇

電話牛込九九一番

山形中學が生んだ實業界の偉材渡邊恒太郎氏。氏は明治廿二年五月の生れ。仙臺第二高等學校を卒るや直に東京帝國大學藥學科に入學、大正二年同大學卒業。卒業後郷里に於て薄荷製造に從事。大正五年一月南洋商會事業を經營し、大正八年十月オリエンタル寫眞工業株式會社に入る。薄荷の製造は今尚郷里に於て父君の事業として繼續繁榮せり。

氏がオリエンタル寫眞工業株式會社の地位は常務取締役である。尚關係會社は

南洋貿易信用株式會社取締役

日本染織工業株式會社取締役

大正九年南洋の事業關係方面の視察をなし四ヶ月同地に滯在せり。

原籍地　飽海郡北平田村七五

會社員　富樫象雄

現住所　東京府豐多摩郡澁谷町下澁谷神原町三

氏は明治卅三年三月十日生。

郷里に於て酒田町立の商業學校を卒業したのは大正二年である。

其後兵役に服した後、芝浦製作所に入り、技術上の實地修業をした。

續いて成蹊高等學校に勤務。

大正十五年六月に到つて東京電燈株式會社に入り、經理課修繕工場に勤務して居る。前途最も多望の未來を有する少壯會社員である。

原籍地　山形市材木町四一一

下谷區長　佐藤久太郎

現住所　東京府北豊島郡巣鴨町一一三五

東京に區長と呼ばれる人が何人あるか。その經歴手腕、社會的地位から云つて區長と云ふものが社會の上層に在ると云ふ事は誰しも考へ及ぶであらう。吾が山形出身の佐藤氏もその一人である。しかも氏の經歴を見るに、殆んど學歴らしいものがない。學歴なくして社會に成功する、以て如何に氏の努力の人で又一面に手腕の人であると云ふことが分る。

大正三年山形縣酒田警察署長。同五年七月東京府屬。

同八年七月東京府北多摩郡々長。同九年八月東京府理事官（庶務課長）

同十年六月北豊島郡々長、同十三年十一月東京市下谷區長。明治十七年十一月生れとあ

以上が東北男兒の氣を吐くに足る佐藤氏の經歴である。

るから今後の氏の手腕こそ見るべきもの多々あろう。

原籍地　東京市本郷區丸山福山町六

家具製造業　設樂鶴太郎

現住所　原籍地

氏の生地は東村山郡、明治十七年十一月生。

郷里に於て廿一歳迄折箱製造業に從事。

大正十一年一月上京、現在家具製造業を始め、今日に至る。

使用人數人。主として椅子製造をなす。

令息一人。

原籍地　南村山郡上ノ山町新町五五一

協調會職員　**柴田清光**

現住所　東京市芝區榮町九

氏は徹頭徹尾意思の人。

大正十一年四月志あつて上京するや協調會社會政策學院に入學專ら社會學を專攻。後、協調會に入り職員として今日に到る。

明治廿五年十二月生れだとあるから今年とつて廿五才の新進。今後に於ける我國の社會政策社會問題の解決は氏の如き人を待つもの多いであらう。

原籍地　鶴岡市

大師銀行常務
市參事會員　**萩原博**

現住所　川崎市大師二六二〇

氏は明治十四年一月生。

明治卅五年川崎市大師銀行に入る。

氏の忠實なる勤勉振りと、其の才能とは忽ちにして同銀行幹部の認むる所となり、明治四十二年、未だ而立ならざるに早くも支配人たるの重職に抜擢さる。

大正九年常務取締役に就任。同銀行經營の一切を擔當して今日に到る。

氏の營業方針は堅實の二字に盡く。尙特筆すべきは同銀行の營業時間が午前七時よりと云ふ勉强振りである。震災當時第一に開業したのは同銀行であつて如何に當事者たる氏の努力奮鬪振りが窺はれるではないか。

氏は更に川崎市々參事會員として地方自治體の爲め盡力さる。

原籍地　山形市香澄町横町南三二二

官吏　染谷光範

現住所　東京府荏原郡駒澤町上馬引澤五三六

氏は明治廿二年三月十八日生。
明治卅九年山形縣立米澤工業學校建築科を卒業。
卒業後鐵道省に奉職。
明治四十一年二月警視廳に就職。
警視廳警察技師任命以て今日に到る。
夫人鏡子との間に二男一女あり。
趣味は將棋。

原籍地　飽海郡酒田町

發明家　佐藤寛三

現住所　東京市下谷區竹町一八

氏は各種發明界の先驅者である。明治二十二年九月誕生、嚴君を寛作氏と呼び、君はその次男である。同家は酒田の舊家、米穀商を家業として居るが、同君亦十六歳より二十二歳迄家業に從事し、後青雲の志抑へ難く家人に乞ふて上京し一時會社員として機會を待ち、大正七年教育玩具の考案をなし、三年後の十年には佐藤式燃燒器を發明し、更に越えて十一年には吾が印刷界に革命的の効果を來せるスペシアル印刷器一名文化印刷器を發明せり。此の發明の特色は一時に各種の色を刷り出し得るものにて諸官衙、其他一般家庭向きに非常の歡迎を受け、分けてタイプライター印刷の複寫に併用して大に効果あるものである。
氏に一男一女子あり。

原籍地　東田川郡藤島村

三菱内燃機株式會社常務

澁谷米太郎

現住所　東京府荏原郡入新井町不入斗二七四　電話大森六五番

氏は山形縣平民五郎右衛門氏四男に生れ、明治十年十二月二十日は氏の誕生日である。即ち明治二十七年十二月分家して一家を創立。爾來奮闘して今日の地位を得たがその基、元より父兄の指導及び恩愛よろしきにもあらうが氏の奮闘的精神亦與つて重なるものがある。左に氏の閲歴大略を摘記して見よう。

明治三十六年東京帝國大學英法科卒業。

直ちに三菱合資會社に入り、東京支店長、香港支店長、門司支店長に歴任。

後累進して三菱商事株式會社金屬雜貨兩部長たり、北洋漁業會社取締役を兼ぬ。

現時は三菱内燃機株式會社常務取締役たり。

家族は夫人ミサ子（明治二十四年三月生）東京山口鋭之助氏長女及び長男武孝（大正七年生）女光子（明治四十四年生）同美枝子（大正二年生）男民雄（大正十年生）。

原籍地　鶴岡市最上町

實業家

稲葉信吉

現住所　東京市赤坂區田町二ノ七　電話青山六四三九番

氏は明治九年四月八日生。幼年時代酒田町に出で製麺業に從事した。後電信學校に入り、酒田郵便局で長く電信係を勤めて居つたが、明治三十六年一切官界と縁を絶ちて實業界に入るべく決心した。

其後北海道に赴き山林、炭礦業に從事し相當の成功を收めたが、大正二年上京、同年には獨力で海運業を營み、船舶大小六隻を有する程の豪勢さを見せて居つたが、同八年考ふる所ありて全部之を賣却し、他の事業に全力を傾倒した。

氏は上京した大正二年に稲葉商會を創立し、以て今日に到れるが、現在の營業の重なるものは建築材料、特許發明品の製造販賣である。就中專賣特許自動スタンド、アイデアル、チョーク（白墨）不二メタル（屋根材）の如きは頗る世人の好評を博し賣行逐日增加の繁昌をなして居る。其他炭礦業、山林業も引續き之が經營に從事しつゝあり。

男一人、女一人。長男（二五）は氏の商會に勤務す。趣味は圍碁

原籍地　北村山郡大富村羽生

千代田火災保險株式會社
取締役兼支配人　植松良三

現住所　東京府豊多摩郡淀橋町柏木一六〇
電話四谷一二八一番

氏は明治五年生。

明治廿六年慶應義塾理財科卒業。

直後時事新報社に入り、經濟方面を擔任し、終始一貫、同社の發展に努力し、累進して編輯部長、主幹となる。

後、同社を辭し、請はれて千代田火災保險株式會社に入り、支配人となり、其後更に取締役兼支配人となる。先年姉妹會社千歳火災再保險會社の創立せらるゝや、氏は亦取締役の一人となり、爾來兩社共最も堅實順調に發展しつゝあるは氏の畫策其の宜しきに座するや固より云ふまでもない。

氏は業務の傍ら村山同郷會の爲めに努力し、創立以來、殆んど同會及び郷黨後進の扶掖に日も之れ足らざるの觀あり。同郷會今日の盛大を來せる殆んど氏の個人的努力に依ると云ふも決して過言にあらず。

原籍地　米澤市

東洋秘密探偵局長　佐藤欽三郎

現住所　川崎市大師中瀬二一三六

山形縣立米澤中學校から、山形師範學校を經て、仙臺東北學院に入り同校文科を卒業した。

卒業後都新聞社に入り、從軍記者として清韓兩國に赴いたことあるが、歸來京濱實業新聞を創立して之が社長となり、併せて他の二三新聞に關係したこともある。

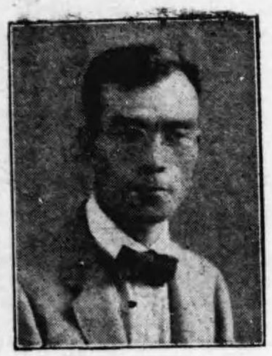
大正十年現在の場所に東洋秘密探偵局を創立し、之が局長として經營の任に當り、以て今日に到る。

活動的、進取的の新人、將來政治界に飛躍すべく着々其準備をなしつゝある。

原籍地　東京市京橋區北槇町六

藥局　高木義道

現住所　原籍地



氏は明治廿一年三月廿五日生。

原籍地は東京になつて居るが氏は生粹の山形ッ兒である。

明治四十年山形縣立山形中學校卒業。

續いて東京帝國大學醫學專門部に入り、大正元年同部藥學科を卒業した。

卒業後大正六年迄藥商店に勤務し、他日雄飛の素地を充分に作つた。

現在は獨立して藥局を開いて居るが、學歴、實地共に申分ない氏のことであるから

營業日增し發展しつゝあるも無理はない。

原籍地　東村山郡天童町

實業家　## 松原重榮

現住所　東京市麻布區本村町一四四　電話高輪五八八八番

羽前天童織田藩士、松原重陽氏の長子。元治元年二月生。前名光治郎。

慶應義塾大學卒業。卒業後操觚界に身を投じ、大東日報の編輯に從事す。

後米國に航し、下級勞働に身を投じ具さに世の辛苦を嘗め、明治十九年ミネソタ州

ミネヤホリス市の田中雜貨商店に入り、販賣係となり、大に才幹を揮ひ、更に紐育起

立工商會社に轉じ、日米貿易に從事す。

明治二十八年歸朝、村井兄弟商會に入り村井吉兵衛氏を扶けて米國煙草業界の覇王

たる米煙會社との合同を遂げ、その取締役及文書總長、總支配人となる。

同三十七年煙草業官營となるや寶田石油會社常務取締役に推され、紊亂せる同社事

業の大整理をなし、現時千代田火災保險、千歳火災保險、海上保險、村井銀行、臺東

開拓、臺東製糖、日出セメントの監査役たり。大阪瓦斯株式會社の取締役たり。

家族は男秀治、養女しづ子、同節子等。

原籍地　山形市

醫學博士　羽太鋭治

現住所　東京市本郷區眞砂町三七　電話小石川七四九〇番

氏は明治十年生。初め山形中學に入り、明治廿八年上京、早稲田大學文科に入り、江見水蔭に師事したることありしが、後歸鄉して醫を志し苦學力行遂に前期の試驗に合格し、明治卅三年濟生學舍に學ぶこと僅に一ヶ月にして卒業試驗に合格し、次で後期試驗に及第して醫師となり、郡部及山形市に開業すること年ありしも、感ずる所あり、同四十四年上京、本鄉に開業の傍ら大學選科、順天堂、三井病院等にて研究し、翌年五月進んで獨逸に航し、各大學に學びてドクトルの學位を得、大正二年十一月歸朝、泌尿器專門を以て神田に開業し、幾くもなくして醫學博士の學位を授與さる。震災後現在の場所にて性病の診療に應じ以て今日に到る。

性學大家としての氏は世既に定評あり。然も氏は其一面文藻に富み、殊に近來獨逸近代文學の研究に沒頭し、將に此方面に一新生面を拓かんとするものゝ如く、其前途刮目して見るべし。

原籍地　北村山郡戸澤村大槇

協調會囑託　**高橋雅介**

現住所　東京府荏原郡世田ヶ谷町若林五二六

明治卅年十一月生れの好青年紳士、高橋雅介氏。氏も亦吾が鄉土人である。出身學校は米澤中學、明治大學法學部、明治大學卒業は大正十二年であつた。同校を卒るや直ちに協調會囑托として請はれ、その才腕漸く認められて今日に於て實に同會での一偉才である。

性快活にして温厚、同鄉人間に於ても未來多き好青年として囑望されつゝある。

原籍地　山形市下條町

椅子製造業　**開沼隆三郎**

現住所　東京市小石川區柳町一一

明治卅四年六月卅日生。

大正三年上京。

椅子製造業を營み、今日に到る。

氏の堅實な營業振りと、熟練した技工とは氏の營業をして今日の盛大さに迄發展せしめたのである。

原籍地　北村山郡長瀞村一〇三九

草履商　**齊藤嵯峨二**

現住所　東京市本郷區湯島六ノ一一

明治卅三年五月廿三日生。

周三氏次男。

大正二年出京、現在の場所にて草履業を營み、營業日增しに發展しつゝあり。

原籍地　最上郡新庄町

復興局公園課長　**折下吉延**

現住所　東京市麻布區森元町一ノ二八

氏は明治十四年十月生。

鄕縣に於て中學教育を終え、東京帝國大學農科大學に入り、明治四十一年七月同大學を卒業す。

直に內務省に入り。技師となり、以て今日に到る。

刻下復興局技師にして、復興局公園課長たり。氏は公園の造營に就て其造詣頗る深く我國に於る此方面の一權威と稱せらる。

從六位勳五等。

明治神宮造營局技師兼任。

夫人たつ子との間に一男二女ある。

原籍地　山形市七日町四五六

株式會社阿部電氣時計製作所專務取締役　現住所　東京府荏原郡目黑町上目黑五六四

安藤市兵衛

氏は明治八年八月七日生。十六歳にして父を失ひ、弱冠よく家業（足袋製造販賣業）に從事し、其間山形市會議員となり、商業會議所議員となり、山形市の爲めに貢献した所少くない。明治四十二年北海道開墾事業の有利なるに着目し、同年渡道、石狩國上川郡美瑛村に農場を經營す、然も其の當初は云ふまでなく荒莫たる原野で氏は其間開墾事業のみならず、美瑛村の創立に黽め、戸長、農會長凡ての公職に就き、同村の發達を謀り、今日では約三百萬坪の豐穰なる氏の農園を見るに到つた。大正八年三月美瑛村が一級町村となるに到り凡ての公職を辭して同年三月上京、大正十年十二月株式會社阿部電氣時計製作所（資本金一百萬圓）を創立し自ら其專務となりて經營の衝に當る。同時計は萬國特許を受け、世界中最も優秀なるものとして知られ、諸官衙、諸會社等に多數使用せらる。男子四人、女子三人あり。長男市之助氏駒場郵便局長、次男は家業に從事し、三男は早稲田大學、四男山形中學在學中、三女子は他に嫁せり。

原籍地　米澤市

兩羽銀行取締役　同　東京支店長　現住所　東京市小石川區白山御殿町一一〇　電話小石川四〇八六番

今清水乾三

氏は明治三年二月十三日生。

舊米澤藩士清水英理氏三男で、嚴父は漢學に通曉し舊藩主の侍講となつた事がある。明治三十年家督相續、夙に米澤中學校を卒業し、專修學校に入り、同二十七年同校理財科卒業。

直後米澤第百二十五銀行に入り、同二十八年八十一銀行に轉じ、同行の兩羽銀行と改稱せらるゝや、米澤支店長次席となりて入行し、後支店長に昇進す。幾くもなくして東京に移りて東京支店長の要職に就き、最近更に取締役の一人たるに到る。氏の東京支店長の職にあること前後既に二十有餘年、同銀行が東都經濟界に重きをなすに到れる氏の努力與つて力あるや云ふまでもなし。

溫良にして最も堅實なる銀行家の好典型。

原籍地　鶴岡市南町一八

丸美商會主　**伊藤善六**

現住所　東京市下谷區竹町一

氏は明治九年六月十八日生。

本縣加茂町出身で函館市切つての大富豪宮崎松太郎氏事業中の鑛山部を氏は長く支配して大に之が經營に努力した。

大正十二年上京後、生活必需品たる米穀販賣業の有利にして且つ有意義なるに着目し現在の場所に米穀販賣業を開始し以て今日に到る。由來山形縣は全國有數の米產地氏の事業の今後發展の餘地多々あるは云ふまでもない。

氏は更に本年に到り麴町區飯田町四ノ一七に丸美商會(電話四谷一六八五番)を創立し、陸海軍、遞信省其他官衙の御用商を勤め、主に庄內米、各種食料品(北海產物)等を取扱ひ、業務逐日順調に發展しつゝあり。

氏に二女あり。趣味は登山に謠曲。

原籍地　鶴岡市上肴町乙九九番地

眞田病院長　**眞田祐太郎**

現住所　神奈川縣鶴見町生麥一三二五

電話鶴見　三七番

横濱本局二七八五番

氏は明治十九年十二月二日生。舊日本醫學校出身、明治四十一年十月醫術開業試驗及第、同四十年四月より同四十五年七月迄東京日本橋區蠣殼町岩佐病院醫局勤務、大正六年八月臨時檢疫醫拜命、同十年七月鶴見町役場傳染病患者收容所囑托醫となる。

大正三年現在の場所にて醫師開業、同五年十月病院組織に改築す。同十年七月傳染病室增築、同十五年田島町小田に分院を設置す。

氏は左記各個人會社の囑托醫たり。

本山總持寺、神奈川縣土木課國道改修工場、鶴見停車場、京濱電氣會社、鶴見警察署、日本鑄造株式會社、日清製紛株式會社鶴見工場、富士電機製造株式會社、鶴見花月園、森永製菓株式會社鶴見工場、東京火力發電所、福德、富士、太陽、愛國、太平、東華の保險會社等。

氏交遊最も廣く、本縣人の爲めに絕えず努力せらる。

原籍地　米澤市
高島屋宣傳部主任　**高橋勝平**
現住所　東京府北豊島郡瀧野川町田端六一三

米澤中學校の出身。
其後明治大學商科に入る。
同大學在學中は永く明大山形縣人會置賜支部の幹事として大に本縣後進の爲めに斡旋する所あつた。
卒業後直に高島屋に入店。
高島屋と云へば三越と相並ぶ我國での有名なデパートメントストーアである。而して其生命は宣傳にある、即ち宣傳の巧拙が營業を活かすも殺すも其の岐れ目となるのであつて、氏が高島屋入店當時より宣傳部方面に携はり、既に五年餘の星霜を經過し今日の如き同店の隆盛を見るに到つたのは氏としても快心の擧たるべく、今後の責任更に重且大なるものあらん。
氏氣宇豪快最も辯舌に長ず　宣傳部主任としては將に之れ適材適所。

原籍地　西村山郡白岩町幸生
共榮商會支配人　**高橋茂市**
現住所　東京市麹町區飯田町四ノ一〇

氏は明治卅三年十月廿四日生。
鄕里永松小學校にて小學敎育を卒え、大正八年山形縣立山形中學校卒業。
直に兩羽銀行本店勤務。
大正九年出京、明治大學商科に入り同十二年卒業。
其れより牛込の白石商店(日用品販賣店)に入り商業上の實地見習を爲し、翌十三年本縣主催日比谷罹災者後援會の事務を擔任し、引續き神田山形屋に入り本縣物產の販路擴張に努力した。
大正十四年原力氏の經營に係る共榮商會に入り、同店支配人として勤務以て今日に到る。同店は內外木炭を手廣く販賣し、本店は麹町區飯田町四ノ一〇にあり、本年更に營業擴張の爲め支店を本鄕區田町三〇に設置す。今後の發展氏の努力に俟つもの多大なるは云ふまでもなし。

原籍地　北村山郡大久保村

宗教家　伊藤道海

現住所　神奈川縣鶴見町
電話横濱本局三二七七番
鶴見一〇八番

氏は明治七年五月十八日新潟縣中蒲原郡小合村に生る。同廿二年新潟市曹洞宗中學に入學、同廿七年二月石川縣能登國大本山總持寺僧堂に入る。同卅二年二月本山の選援に依り曹洞宗大學に入學、同卅七年卒業、同年九月曹洞宗管長の特選を以て山形縣北村山郡大久保村寶鏡寺住職に任せらる。

明治四十年本山鶴見に移轉の議興るや、氏は石川貫主より移轉事業の一切を囑托せらる。爾來本山に常在して職にあること二拾餘年、本山、副寺、副監院、監院たり。同本山の經營事業たる女學校理事長、佛教少年保護會理事長、鶴見社會館々長たり。同本山のこと大小となく凡て氏の方寸より出づ。世人鶴見總持寺と云へば直に師を連想する程、本山唯一の大黒柱である。

原籍地　山形市香澄町

大勢新聞社
廣告部長　鈴木英吉

現住所　東京市淺草區今戸町一三

氏は明治廿七年生。

山形師範學校附屬小學校卒業。

上京して相場界に出入し、好況時代には一時巨萬の富を重ね、儕輩羨望の的となつたこともある。

九年の大瓦落以來、氏は暫らく相場界を遠ざかり、大正十一年九月山形自由新聞社東京支局に入つた。

越えて同十二年五月大勢新聞社廣告部に入り、氏の手腕は忽ち同社幹部の認むる所となり、同十五年同社廣告部長に昇進し、以て今日に到る。

子女二人あり。趣味は園藝。

原籍地　山形市旅籠町

蔦平泉主人　**叶内文太郎**

現住所　横濱市常盤町四丁目

氏は明治廿三年生。

郷里にて小學教育を卒え。山形縣立山形中學校入學。

後山形市旅籠町に陶器店を開業し、大に販路の擴張に黽めた。

其れより大正四、五年の交上京、更に擴濱に赴き料理店開業。

氏の如才なき營業振りは忽ちにして大繁昌を見るに到つたが、不幸にも十二年の大震災で殆んど全滅の非運に遭遇した。

そこで氏も止むを得ず、一時郷里山形に歸り、藝妓業蔦の屋を開業したが、大正十三年再び横濱に赴き、蔦平泉と名くる附近第一流の藝妓屋を開業し、以て今日に到る。

趣味は書畫骨董類。

原籍地　北村山郡戸澤村稲下一三八

井澤寫眞製版所主　**井澤善也**

現住所　東京市京橋區南槇町五

電話京橋二九五三番
三六六六番

氏は明治廿三年八月廿一日生。

井澤清太郎氏の弟。

明治卅九年四月上京、中外寫眞製版所に入り、寫眞製版の技術を實地研究した。

大正七年獨立して井澤寫眞製版所を創立す。氏の努力奮鬪は氏の製版所をして遂に今日押しも押されもせぬ市内第一流の寫眞製版所たるに到らしめた。

營業科目は三色版寫眞銅版、亞鉛凸版等にて寫眞は出張撮影の求に應ず。

男子一人、女子三人あり。

快活にして活動的の少壯事業家。

原籍地　東京市小石川區茗荷谷町五八
辯護士　吉田豊治郎
現住所　原籍地

明治六年四月二十六日生。
酒田出身。
辯護士開業、老練熟達の法曹家として好評あり。

原籍地　山形市香澄町
會社員　宮地貞
現住所　埼玉縣浦和町岸町三三〇九

明治卅二年十月十日生。
大正八年山形中學校卒業。
其後早稻田大學入學。同十二年同大學商科卒業。
直後東洋生命保險會社に入社し、同社本店に引續き勤務さる。

原籍地　鶴岡市家中新町
紙袋製造業　大淵吉威
現住所　東京市四谷區東信濃町三

氏は安政三年九月七日生れ。獨立獨行の士である。
生地は原籍地鶴岡市家中新町であるが、明治七年頃には米澤市に居住して居られた。
明治十年上京。
明治卅年頃東信濃町に紙袋商を始め、三四年後現住所に轉じて現業に從事す。その業頗盛大なり。
主に氏が製造する紙袋の用途は果樹の害蟲を防ぐ爲の防蟲袋で、青森、秋田縣に販賣し目下事業擴張中にして仙臺方面に取引を開始しつゝあり。尙外に神奈川縣は現在に於ける重要取引先である。
種目は新聞紙袋十種茶色摸造紙等にして價格は一萬枚單位にして二圓五十錢より五十圓迄。

原籍地　東置賜郡中川村

衆議院議員　西方利馬

現住所　東京市小石川區林町六三
電話小石川二八二四番

氏は明治十六年三月十三日生、儀作氏長男。學歷としては東京攻玉社中學卒業、直に中央大學に入り、大正二年同大學法律科を卒業した。

其後實業界に活躍し、中山葡萄園株式會社に長たり、特に土木建築請負業に於て氏が天禀の技能は忽ちにして成功の彼岸に達せしめ、從つて少からず氏の資產を增殖せしめた。

大正十三年時偶々清浦内閣に依つて衆議院の解散となるや氏は置賜地方より推されて代議士候補者となり、首尾よく代議士に當選し、其後氏の實力、氏の辯舌とは忽ちにして氏をして本縣政友會の重要幹部たるに到らしめた。然も氏の政治家としての前途は更に洋々春海の如きものがある。

氏は更に財團法人山形縣體育協會々長、中央大學、攻玉社中學評議員、東置賜郡人會々長（山形市）等の名譽職を有す。

原籍地　函館市會所町（本宅）
出生地　西田川郡加茂町
回漕業　宮崎松太郎
現住所　原籍地（店舗函館市中濱町）
同　東京市麻布區狸穴町三〇（別宅）

氏は嘉永二年生れ、本年取つて七十八歳の高齡なるも今尙鑊鑠として元氣尙壯者を凌ぐ。十九歳鄕を出でゝ渡道し、函館市草分の一人として一代に巨富を作り上げた所謂同市五人男の隨一人として相馬哲平氏と並び稱せられて居る。氏及び氏一族の經營する丸宮回漕店は回漕業としては我國第一否、東洋一と云ふも過言でない程規模の雄大なものであつて、以て如何に氏一代の事業が一面に於て國家的意義を多量に持つて居ることが窺はれる。嘗ては函館市に於て幾多の公共事業、名譽職にも携はり殊に山形縣人の爲めに盡す所あつたが近來家業一切（回漕業始め其他一切の事業）は長男信太郎氏（函館商業出身）に一任し氏は唯其大綱を總ぶるのみ。氏に四男、一女あり。次男正二氏法學士國際信託社員、三男は函館の店務を見、四男は本年帝大法科を出づ。長女は加茂町出身吉田農學士に嫁す。所謂春風堂に充つるの觀あり。

性書畫骨董を嗜み、蒐集せる珍什無數。因に氏は時々鄕里に墓參して鄕黨を賑はし、寺院に莫大の田地を寄附する等、其他公共事業にも寄與する所尠からず。

原籍地　最上郡新庄町
東京日日新聞社
經濟部長　杉山幹
現住所　東京市赤坂區青山南町五ノ二七
電話青山五七一二番

新庄中學校の出身。慶應義塾大學政治科卒業後、直ちに大阪毎日新聞社に入社。間もなく同社より財政經濟研究のため歐米に留學を命ぜられ、四ヶ年間英米獨佛を歴遊して歸朝後、同社整理部長として編輯を擔當し、大正十四年同社東京支店に轉任し、現に東京日日新聞社の經濟部長である。

氏は明治十九年生れであつて、夫人信子との間に一男あり。氏の趣味は謠曲とゴルフで、激務の餘暇をさき毎早朝駒澤の東京ゴルフ倶樂部に通はれてゐる。

因に氏はその職務上午前中の面會は一切謝絶してゐるから、氏との面會は午後二時から五時迄の間に有樂町の東京日日新聞社でせらるゝのは便宜であらう。

原籍地　西村山郡寒河江町
帝通社員　西尾卓巳
現住所　千葉縣東葛飾郡葛飾村西海神道了屋敷

氏は明治十八年寒河江に生る。

幼にして東置賜龜岡大攝寺に入り、後曹洞宗大學林に入り、同校卒業。

明治卅七、八年日露戰役に於て氏は志願兵として出征し、凱旋後博文館營業部に大正十二年頃迄勤務した。

大正十三年乞はれて帝國通信社に入る。氏の如才なき交際振りは、帝通社員として最も適材適所を得たるものと云ふべし。

男女子合せて六人。

趣味は旅行。

原籍地　東京市小石川區原町一二

醫　笹原勝治

現住所　原籍地（電話小石川六〇六番）

氏は明治六年五月九日生。
明治廿九年の濟生學舍卒業生である。
同卅年內務省醫師開業試驗に合格。
直に警視廳に奉職。
明治卅五年陸軍々醫奉職。以て今日に到る。
現住所にて醫師開業。
氏の戶籍は東京市になつて居るが本縣鶴岡市の出身である。
氏は他に左の名譽職を有す。
東京高等蠶種學校囑托。
東京市立小學校囑托。

原籍地　山形市上町

胃腸病院長
醫學博士　神保孝太郎

現住所　東京市本郷區彌生町二　電話小石川三〇〇六番

氏は明治十八年十二月廿四日生。
明治卅五年山形縣立山形中學校卒業。
第五高等學校を經て、東京帝國大學醫科に入る。
同四十二年同科卒業。
直後一ヶ年東大醫科病理學教室助手勤務、其後三ヶ年東大入澤內科助手となり、備に斯學の蘊奧を極む。
大正三年三月麴町區內幸町胃腸病院に入り其後累進して院長の重職に座するに到れり。
大正十年醫學博士の學位を受く。
胃腸病の大家としては世既に定評あり。

原籍地　飽海郡南平田村櫻林

菅原洞禪

現住所　東京市麻布區飯倉片町一五
　　修養世界社
住職地　米澤市曹洞宗照陽寺

氏は明治十九年五月三日生。大正元年、伽藍佛敎より民衆佛敎の宣揚を企念し、當時敎界の權威者たる大内青巒居士を顧問とし國民修養會を創立し、雜誌『修養之世界』を刊行して今日に到る。居士逝去後、佛敎各宗管長を名譽顧問に、新井石禪師を總裁に仰き、會の目的たる佛敎主義を宣傳すべく、傳道部を擴張し、文書刊行に力を注ぎつゝあり。現在毎月定期講演約四十ヶ所を巡回しつゝあるも、將來は東京市内に會堂を建設し各專門の布敎師を置きて活動し、聊か上四恩報謝、下化衆生の本懷を完うせんとしつゝあり。著書修養十二ヶ月を始め多數廣く世に行はる。住職地には監事及徒弟數名ありて寺務を辯ず。徒弟中には山形官界生活卅餘年の經驗ある前西田川郡長伊藤賴道氏あり。大正十三年佛門に入り照陽寺門庭にあり本年病歿さる。氏は其他警察、工場、郵便局布敎師、遞信省修身講話囑托等を兼ぬ。

原籍地　山形市宮町三五六
大審院判事　**神谷健夫**
現住所　東京府北豊島郡瀧野川町西ヶ原七一
　　電話小石川三九〇〇番

正五位、勳五等判事、東京控訴院部長神谷健夫氏は神谷直麻氏の長男、昌雄氏はその令弟に當る。

明治十年三月の生れ。

明治卅六年京都帝國大學法科大學卒業。司法官試補となる。

明治卅八年京都地方裁判所、同地方裁判所部長に任官。大阪地方裁判所東京地方裁判所部長を經て大正十年四月東京控訴院部長に任官さる。

尙その傍ら陸軍經理學校、早稻田大學等の講師たり。

氏今や本邦法曹界の大宗たり、傍趣味として大弓、茶道に親しむ。

家族は夫人花子（明治廿二年十二月生。山形縣人鈴木六次郎氏四女。）

男恒夫（明治四十三年七月生。）女俊子（明治四十一年生。）叡子（大正六年生。）淑子（大正六年四月生。）男亮（大正八年十一月生。）等。

原籍地　北村山郡大石田町一四〇

大審院判事　佐藤友藏

現住所　東京市本郷區菊坂町七一

電話小石川二七六番

從五位勳五等判事、大審院判事、佐藤友藏氏は亦山形の人。

同地富豪佐藤茂兵衛の令弟、明治七年一月生。

學歴としては明治廿七年七月東京帝國大學法科大學英語科卒業。直ちに司法官試補に任ぜらる。

明治卅九年判事に任官、斯學研究の爲め獨逸に留學。

其後、横濱、東京各地方裁判所判事、大阪地方裁判所部長、大阪控訴院部長を經て、大正十三年五月大審院判事に任せられ、以て今日に到る。

家族は夫人りよう子（明治二十一年八月生れ。）男裕太郎（明治四十二年四月生。）女あい子（明治卅九年八月生。）男喜一（大正四年四月生。）男稔（大正八年二月生。）女恭子（大正十一年十二月生。）等。

原籍地　鶴岡市家中新町戊三

戸山腦病院主事　高橋義信

現住所　東京市牛込區若松町一〇二

氏は明治五年九月十九日生。その閲歴は、明治廿八年警視廳巡査拜命より越えて卅五年十一月廿九日警部拜命。大正五年五月卅一日の警視任命等にして、尚その後八王子、及び西神田署長に補され、大正七年六月福島縣警視、福島縣警察署長等に歴補、更に九年七月朝鮮總督府道警視京城東大門署長、昌德宮警察署長となり十一年五月支那雲南省高等警察學校教習（日本流に云へば教授）拜命、十三年退職歸國、退職後は鄕里鶴岡市に歸りて悠々閑地に遊び、狩獵　釣魚等に親しみ、十四年五月廿六日上京、戸山腦病院主杉村氏母堂の從弟たりし關係に依り招かれて同院主事となり今日に及ぶ。

因に氏は從六位勳六等なり。

原籍地　鶴岡市
鐵道省官吏　三浦宇三郎
現住所　東京市芝公園鐵道省官舍

氏は明治十六年三月五日生。
明治卅五年山形縣立庄内中學校卒業。
高等學校を經て東京帝國大學に入り、明治四十一年同大學工學部土木工學科卒業。
直に鐵道省に入り、同四十四年十二月鐵道技師（七等）拜命。
其後室蘭（大正二年四月）札幌（大正十一年一月）千葉、新橋各保線事務所長に歷任、
大正十五年十月十五日鐵道省工務局保線課勤務となる。
從五位勳六等高等官三等一級。
男女子六人あり。
趣味は園藝と讀書。

原籍地　北村山郡
足袋製造業　宮本元雄
現住所　東京市神田區三崎町三ノ四九

明治七年八月八日生。
上京以來卅年。
足袋製造業を長く營む。永年の老舗で、其基礎頗る牢固たるは云ふまでもない。

原籍地　東置賜郡梨郷村竹原
商業　小關金太郎
現住所　東京市小石川區宮下町三二

明治十七年五月十二日生。
同四十二年四月上京。
薪炭及び日用品一式（代表的商品としては山吹味噌）を販賣す。
特に縣產の販路擴張に努力しつゝあり。

原籍地　東村山郡出羽村千手堂

三越吳服店
重役秘書　**加藤恭太郎**

現住所　東京府豐多摩郡澁谷町中澁谷四二七

氏は明治卅年三月六日生。
大正四年山形縣立山形中學校卒業。同十一年慶應大學經濟史學科卒業。
直に三越吳服店に入り、同商店秘書課に勤務す。
大正十五年七月一日、重役秘書となり以て今日に到る。
女子二人、舊姓大內、弟大內桂助氏立正中學四年在學。
趣味としては中學出身同窓の動靜を語り合ふことで、以て如何に氏の濃やかな人間味の持主であることが分る。
氏は毎年全國商業學校(甲種卒業生)採用の爲め各地に出張す。本縣有爲の青年の志望者續出を希望して居る。

原籍地　西村山郡寒河江町

會社員　**井戸達夫**

現住所　東京府荏原郡大森町七三六

明治十七年十月十七日生。
山形縣立山形中學校卒業。
明治四十四年早稻田大學商科を卒業。
直後バグナルヒレス會社に入る。
現今東京電氣株式會社勤務。

原籍地　飽海郡中平田村濱田堀南七七

會社員　**矢島周三**

現住所　東京府北豐島郡高田町高田一四八二

明治十四年三月四日生。
永く東北地方に官吏となる。
大正八年上京。
會社勤務。

原籍地　山形市三日町

醫　佐藤觀作

現住所　東京市日本橋區若松町一四

電話浪花九二七番

氏は明治十年六月廿八日生。
明治卅三年上京。
東京醫學校に入り同校卒業。
直後東京帝國大學醫學部選科に入り、同科を履修。
更に北里研究所に入り一ヶ年細菌學を研究した。
大正四年現住所に開業し今日に到る。
男子一人、女子三人あり。
趣味は溫泉の旅行に登山。

原籍地　米澤市

實業家　藁科正彰

現住所　東京市小石川區原町一一七

氏は明治二年十二月廿四日の生。
現在に於ては八千代生命保險會社監査役である。
氏は同社の創立當時より一社員として入社し、努力奮闘、非常の成績を擧げた結果同社の幹部に見込まれ、募集員から拔擢せられて重役の一人となつた。之れ一に氏が實力と努力の結果が酬ひられたものであつて氏としては大に誇るべき一挿話と云ふべきであらう。
同社重役は主に九州人で、東北人としては氏一人、亦萬綠叢中紅一點の觀あり。

原籍地　最上郡新庄町
北條オイルシルク工業所主　北條勝豐
現住所　東京市芝區白金臺町二ノ一八

氏は明治十九年十月十二日生。
明治四十三年の東京農業大學出身である。
現在は池上村雪谷に工場を設け、主にオイルシルクの製造に從事して居るが、氏が此事業を開始してから既に十餘年の星霜を閲して居るのであるから、其技術の優れたるは勿論、事業の基礎牢固として拔く可らざるに到れるは云ふまでもない。
從つて其製品は三越、松坂屋、白木屋等一流のデパートメントストーアに於て販賣せられ、得意先は市内外を通じて頗る多い。

原籍地　山形市香澄町小鎌一九〇
東京信用組合　金澤金助
現住所　東京府豐多摩郡大久保町東大久保四二一

氏は明治八年十一月二十日の出生。
明治四十二年日韓合邦前より朝鮮政府に雇傭され、合邦後は總督府に勤務し、大正十二年春官を辭して歸京した。
現今は日本橋區馬喰町四ノ一二有限責任東京信用組合に勤務す。

原籍地　飽海郡酒田町本町七ノ一〇
回陽堂印舗　石合喜六
現住所　東京市日本橋區蠣殼町一ノ三

明治十年二月廿日生。
小松喜右衛門氏五男、郷里小學校卒業後自宅にて修業したが感ずる所なり、明治卅二年上京神田區回陽堂に就て專ら斯業を修得した。
明治卅七年現在の場所に開業、十二年の大震火災で多大の損害を受けたるも、其後氏の奮闘努力に依り確實に復興し、業務逐日繁榮を極む。一子あり、十七歳。

原籍地　西田川郡加茂町一二六

藥局　秋野幸助

現住所　東京府豊多摩郡中野町雜色四四一

氏は明治十七年三月五日生。
庄内中學校を半途退學し、北海道函館商船學校に入る。
明治卅六年陸軍醫務課勤務。
其後功勳に依り勳七等白色桐葉章。同瑞寶章を授與さる。
明治四年一、二年の交日本橋區室町三共製藥株式會社機械科に入り、十四年退社。
大正十二年八月より現在の場所に藥局を開業し以て今日に到る。
營業科目は化學工業藥品、醫療理化學機械、寫眞機及材料、運動具、樂器、文房具、化粧品等で東京高等學校御用である。
女子二人あり、長女は麹町高女一年在學中。

原籍地　東置賜郡中郡村下奥田

復興局囑托　田制林之助

現住所　東京府荏原郡馬込村東九〇一

氏は明治十九年九月十六日生。
明治四十年山形縣立米澤工業學校建築科を卒業した。
其後千葉縣廳、宮内省、警視廳、海軍省、農商務省、朝鮮總督府等の官吏を奉職。
大正十四年東京市役所に入り、技師として帝都復興事業に從事す。刻下東京市區劃整理局第一出張所移轉課技術部長たり。
男女子各一人あり。
寶生流の謠曲を能くす。

原籍地　西田川郡加茂町二〇七

海軍大學校教官　**新田義雄**

現住所　東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷四二二

氏は明治十二年三月廿五日生。

明治卅二年庄内中學校卒業。

同卅七年海軍機關學校卒業。

少中尉の際には巡洋艦八雲乘組、明治卅七八年日露戰役に出征して大尉に進み、次で練習艦宗谷乘組となり、海軍機關學校教官に任ぜられ、少佐に進み、海軍省艦政本部並技術本部出仕となる。

次で中佐に進み、磐手乘組、磐手機關長となり、更に海軍省艦政局軍需局員たり。

續いて大佐に進み、第五戰隊機關長、呉工廠檢査官、佐世保軍需部長を經て海軍大學校教官となる。

四男あり。長男より三男迄は武藏野高等學校在學中。

原籍地　西村山郡

實業家　**井上俊雄**

現住所　東京市芝區三田四國町二八

氏は文久二年二月十四日生。

實業家としての氏は所謂功成り名遂げ今は閑地にあるも、氏が今日迄の地位を作るには其の努力奮鬪與つて力あるは云ふまでもないけれど、氏が當初より土地家屋投資の有望なるに着目し、逸早く此方面に指を染めた先見の明が氏をして今日あらしめたと云ふも過言にあらず。

幾多の名譽職を有す。

原籍地　飽海郡松嶺町
星製藥社長
秘書兼計劃課長　**折田重彰**
現住所　東京府荏原郡碑衾村碑文谷中九一三五八

氏は明治卅一年七月十七日生。
大正五年高等師範附屬中學校卒業。
直に東京商科大學に入り、同大學を卒業した。
大正八年四月星製藥株式會社に入り營業部に勤務したが、幾くもなくして大阪ベルベット石鹼株式會社販賣部長に轉じた。
大正十五年十月再び星製藥株式會社へ入社、社長秘書、兼計劃課長の重職を占む。
女子三人ある。

原籍地　南村山郡中川村金屋一九
繩類卸商店　**鏡周作**
現住所　東京府豐多摩郡代々幡町代々木新町七

明治十九年三月一日生。
傳左衞門氏三男。鄉里を出てから横須賀で商業の實地見習ひをなし、明治四十五年小石川で開業し、其後牛込、四谷に移轉營業を繼續したが本年現在の場所に發展營業しつゝある。
家に二男ある。

原籍地　鶴岡市家中新町一一
洋服裁縫業　**金野全大**
現住所　東京市本郷區春木町三ノ二

明治十四年一月廿三日生、鉉治氏長男、鄉里に於て小學校卒業後、洋服裁縫業を開業したが、大に考ふる所あり、大正四年出京、前業を繼續し、益發展の機運に向ひつゝあり。
氏に一男二女あり。

原籍地　東村山郡

賄　業　伊豆田源藏

現住所　東京市本所區林町三ノ一八

電話本所五四四八番

氏は明治十八年六月十日生。

大正二年上京以來、賄業を營み、各會社工場等の辨當を手廣く引受け、日增し盛業に赴むく。

他に左の名譽職を有す。

江東辨當同業組合副組長

帝國在郷軍人會幹事

本所林町組長、林町々會理事

氏は政治に對して少からぬ興味を有し、同地方政界有志中の錚々たるものなり。

原籍地　飽海郡觀音寺村

池田ペント式金庫製造販賣業　池田喜四郎

現住所　東京市淺草區柳原町二ノ四

電話淺草七〇九〇番

ペント式池田金庫製造業並に建築金物請負業をして近時市内の同業者間に頭角を現して來た池田氏も吾が同郷人である。明治元年の生れ、氏、廿二年志あり上京。鍛治業の徒弟となりて斯業を研鑽五年、後廿九年淺草區に於て獨立營業す。その後本郷區に移轉して順天堂病院の建築に關係し、約七八年をその業に費せし結果幾多請負元より其の手腕を認められ、建物金物製作を依頼されしのみならず大倉組の專屬出入を托せらる。卅八年再び淺草に移轉し、現住所に店舗を定めて益々業務を擴張せし結果各大學諸官衙銀行會社乃至大商店等の注文依頼頗る多し。尚氏は池田ペント式金庫の發明あり。該金庫は外壁、内部構造亦特質あり絶對に火熱の遮斷を有す。氏談論風發、趣味に盆栽あり、性謙讓近隣人望厚し。

原籍地　山形市旅籠町六五三
東京朝日新聞記者　**服部敬雄**
現住所　東京市小石川區小日向水道町一〇八

郷縣山形縣隨一の大新聞山形自由新聞の主宰者、敬吉氏を父に持つ氏は亦天性のヂャーナリストである。氏は明治卅二年の生れにして新庄中學出身。新中卒業後早稲田大學豫科に入つたが父君の血を受けた氏はヂャーナリスチックな血液の湧出止まず同志を糾合して新聞研究會を起し、自ら之れを率いて週刊早稲田新聞を起し大に氣を吐いた。

大正十三年同大學政治經濟科を卒業。氏の才分大に當局に認められ、推されて大學院に入り、特に奬學資金を得た。大學院での氏の專攻はお手のものゝ新聞學、新聞學を科學的に研究するものであつた。時偶、十四年十二月氏の才能を見込んだ東京朝日新聞社は氏を同社に招じた。氏亦欝勃たる覇氣の持主である。直ちに入りて操腕界の人となる。天性のヂャーナリストである。氏今や社内の敏腕家である。

目下新聞學の著書執筆中。

原籍地　米澤市
實業家　東京市芝區二本榎西町二　電話高輪五三五九番(呼出)
鈴木勉治

明治二年十月五日生。

氏は本縣出身で東都實業界に飛躍せらるゝ成功者の一人である。刻下の事業は株式會社ヤマトメタル商會重役、機械、建築、土木設計監督代願及金融業等であるが、他にて氏には精米機、精穀機械又は杵の昇降裝置につき各特許を受けたるもの多數あり。凡の事業逐日發展しつゝあるを見る。

原籍地　米澤市西仲間町五五三三
現住所　東京市下谷區谷中初音町四ノ一七四
銀行員　**齋藤兵助**

大正五年郷縣山形縣立米澤中學校卒業。同十二年青山學院を卒業。直に株式會社川崎銀行に勤務し、以て今日に到る。

原籍地　西村山郡谷地町辛一三八

東京朝日新聞社營業部

現住所　東京府北豐島郡高田町高田三五一

升川正太

鄉土切つての大請負業者として一代に傑出した升川倉松氏の三男正太氏、氏は明治卅三年十月生れの今年とつて二十七歳の少壯有爲の士である。大正七年の山中卒業を振り出しに、同年四月早大高等豫科入學。更に大正九年同大學商學部入學。十二年三月同大學を卒ふるや直ちに請はれて大阪朝日新聞營業局に入る。

大正十四年、不幸嚴父倉松氏の病篤きや氏急遽走せてその看護に赴き日夜寢食を忘れて父君の心を慰めしが、遂に藥石效なく七月、嚴父こう焉として逝かる、氏、爾來鄉里に在りて亡父の傳記編纂に從ひ、十五年三月脫稿、七月發行亡父の靈を慰む。

大正十五年、卽ち今年一月卽ち嚴父傳記編纂中東京朝日營業局しきりに氏を請ふものあり。氏卽ち求めに應じて同社同局に入り今日に至る。性溫厚、典型的好紳士。

原籍地　山形市香澄町大寶寺一二九

會社員　岡崎兼吉

現住所　東京府荏原郡調布田園都市四九九

氏は苦學力行の人である。

先づ氏が今日の地位に在る振り出しを見るに、仙臺通信生養成所卒業とある。後山形郵便局に六年間勤務。

後日志有り、上京して專修大學經濟部に入り、大正九年卒業。卒業後株式會社蒔田工務所。安中電氣製作所富士見商會中井鐵道機械製作所等を經、現在は日本國產株式會社の社員。

明治廿六年四月廿日生れとあるから、氏の眞の活動さるゝ世界は今後のものであらう。

原籍地　東村山郡金井村江俣六七

峯田小次郎

現住所　千葉縣中山町高石蛇田九三

東京金物競賣株式會社支配人

氏は明治廿七年四月廿日生れ。四十年郷里の小學校を卒業するや直ちに村役場に給仕として雇はれ、月給三圓を給せられ、越えて大正二年四月志を立て東都に出で、苦學力行東京簿記專修學校、慶應義塾商業學校に學び、好成績を以て卒業。學成るや母校より推選されて株式仲買店員となる。然れども不幸にして同店閉店となり、再び母校より推されて富士瓦斯紡績株式會社に計算係として入社。在社六ヶ月、氏の才腕直ちに先輩の認むる處となり大正六年二月現在の金物競賣會社に入社し、昨十四年現會社の改革に際し、前支配人幹部社員の退社の後推されて支配人の要職に登る。

氏は自己の業務に趣味を見出す人。亦時に書畫園藝に心を露す事あり。家族はカツ子夫人(二八)との間に今年八歳の幸之助氏あり。因に事務所は本所藤代町河岸。

原籍地　米澤市

吉岡千代吉

辯護士
辯理士

現住所　東京市芝區田町六ノ一　電話高輪五三三〇番

氏は明治十一年四月廿九日生。

明治廿九年山形縣立米澤中學校卒業。

直に第一高等學校に入り、同卅五年同校を卒業す。

續いて同四十三年東京帝國大學法科大學卒業。

大正六年七月辯護士を開業し以て今日に到る。

帝大卒業後帝國生命保險會社、太陽生命保險會社に五年間顧問となる。

原籍地　鶴岡市十三軒町五

公　吏　**鳥海慶次郎**

現住所　東京市下谷區谷中眞島町一ノ四號

明治九年四月四日生。

同卅年上京遞　省書記補に任命され、同卅五年沖繩縣土地整理局測量技手となる。

同卅八年東京市役所技手となり以て今日に到る。

氏に一男四女あり。

原籍地　山形市七日町

袴　商　**羽角金治**

現住所　東京市本所區若宮町七六

明治七年九月廿八日生。

明治四十六年上京、袴商店を開き、袴專門の外、羽織、帶等各種の販賣をなし、業務逐日繁榮す。氏は最も營業に熱心にして顧客の利便を謀る爲め信用頗る厚し。

原籍地　鶴岡市

觀世流謠曲教授　**齊藤慶次郎**

現住所　東京市小石川區大塚仲町三六ノ一五

氏は明治元年正月十八日生、東都謠曲界で有名な觀世流謠曲教授たる氏は、其昔鄉里に於て明治卅年頃米穀仲買人となつて、錙銖の利を興ふたことがあり、當時貧民を氏助して縣知事より表彰されたこともある。

然も天性の嗜好は氏をして漸次實業界より謠曲の方面に其歩を轉ぜしめ、逐年精進倦まざるの努力は氏をして遂に東都謠曲の大家たらしむるに到つた。

元來氏は業務の傍ら謠曲の教授をして居つたものであつたが、大正十四年高野直治校等の國粹觀謠會の創立せらるゝと同時に全然凡ての業務を廢し、專門的に斯道の教授をなし、會員も既に一百餘名の多きに達して居る。氏は其他廢兵院に無料教授をなし、謠曲本數百部、見臺等を寄附し、廢兵の慰安に勉めて居る篤志家である。

原籍地　南村山郡上ノ山町鶴脛町

東京帝國大學教授　**朝比奈泰彦**

現住所　東京府豐多摩郡戸塚町上戸塚清水川一二三
電話牛込四一六〇番

正六位、東京帝國大學醫科大學(藥學講座擔任)教授、日本藥局法調査會委員、朝比奈泰彦氏は明治十四年四月十六日、南村山郡上ノ山町に生る。卅二年四月東京府立尋常中學卒業。卅二年七月第一高等學校第二部入學。同卅五年六月卒業。同東京帝大醫科大學藥學科入學。卅六年特待生となり、卅八年卒業。恩賜銀時計授與さる。同年六月大學院入學。八月助手となり藥學科教室勤務拜命。同四十二年八月休職。自費を以て渡歐、同十月から四十五年二月迄瑞西チユリツヒ市ポリテヒニクム化學教室別科生として在學。四十三年十一月論文植物成分の研究補遺(獨文)を提出して博士號授與。四十四年八月より一年間文部省留學生拜命、四十五年三月より七月迄伯林に在り、大正元年九月歸朝、同月東京帝大醫科大學助教授拜命(藥學科第三講座擔任)七年二月同教授となり今日に至る。研究專門は藥學、特に生藥學。著書として『有機化學概要(飜譯)』その他數種。家族は令閨との間に三息あり。

原籍地　南村山郡金井村黑澤

畫家　**渡邊義一**

現住所　東京府北豐島郡西巢鴨町新田八二八

氏は明治二十六年十一月生れ、山形中學から大正二年に上京し、東城鏘太郎氏の門に入り洋畫を研究し、傍ら故黑田清輝氏經營の葵橋研究所に入り研究を重ね、以て今日あるに至る。光風會、日本水彩畫會、太平洋畫會等に出品して其都度賞、前途多望の青年畫家である。氏に一男一女あり。書畫骨董の愛玩は其の唯一の趣味。

原籍地　南村山郡金井村黑澤

畫家　**渡邊清光**

現住所　東京府北豐島郡西巢鴨町新田八二八

氏は前記義一氏の令弟にして通稱久助、明治廿九年八月出生なり。大正六年上京、同じく東條氏の門に入りて洋畫を研究し、傍ら中村不折氏等の太平洋畫會、岡田三郎助氏の本郷研究所に入りて斯道の蘊奥を極む。義一氏と云ひ、清光氏と云ひ何れも殆んど獨學に近くして今日の大成をなせるは其天分の然らしむる所とは云ひ亦其著しき刻苦勵精の痕を見る。趣味は圍碁。

原籍地　北村山郡戸澤村白鳥六五二

藥劑師　**大和正雄**

現住所　東京府住原郡矢口村下丸子七五五

氏は明治廿九年十二月十四日生、駒藏氏の一子として生れたが、七歳にして嚴父に死別し、後間もなく母堂に逝去され、幼時偏に孤獨の悲哀を嘗む。

然も氏は此の間にあり、奮勵努力、大正八年四月明治藥學專門學校を卒業し、直に芝區芝口一丁目にある社團法人實費診療所芝口本部細菌試驗部に技師として勤務、熱心細菌の研究に從事した。

同十二年の震災に遭遇し、同時に細菌部が淺草支部病院内に移さるゝことゝなり、氏も亦支部に轉勤以て今日に到る。

氏は一班醫師の希望に依り、事務所を本所區龜澤町二ノ一〇血清化學研究所（電話墨田二八二七番）に設け一般衞生諸檢査の依頼に應じて居る。

原籍地　南村山郡飯塚村一一六

第百銀行
營業部長　**吉田良三**

現住所　東京府豐多摩郡代々幡町代々木初臺四七四
電話四谷七四六番

氏は明治十二年十月十六日生。

鄕里で小學敎育を終り、山形縣立山形中學校卒業後、第二高等學校を經て、東京帝國大學に入り、明治四十一年十月同大學法科政治科を卒業した。

大學を出てから直に故池田鎌三氏を頭取とせる第百銀行に入り、熱心に行務に從事したが氏の逸材は忽ち池田氏の認むる所となり、漸次累進して今日では既に營業部長の要職にあり。新進銀行家として其前途に多大の未來を持つて居るのは云ふまでもない。

原籍地　鶴岡市

會社員　鈴木重成

現住所　東京市小石川區高田老松町五七

氏は明治十四年八月廿日生。

明治四十年三月南滿洲鐵道會社に入社し、滿洲に赴き大正九年五月まで同地に勤務された。

同年歸朝、同會社東京支店勤務となり、人事課主任として今日に至る。

氏は一面頗る漢詩書畫の造詣深く、號を雲洞と號す。

春日讀書

柴門無剝啄
牀上篆烟舒
細雨蕭々裏
幽齋讀古書

原籍地　南村山郡上ノ山町

宗教家　木村豊春

現住所　東京市淺草區山谷町一五

氏は明治十九年十二月廿日生、周助氏次男。

小學校卒業後故ありて僧籍に入り、東京は世田ヶ谷中學校を卒業し、明治四十三年には東禪寺の住職補にせられた。

然も師の研究心は之に滿足せず、更に東洋大學に入りて學術の蘊奥を極め、大正五年同大學を卒業し、又明治大學に入り、大正十四年同大學を卒業した。

かくて師は宗教方面のみならず、熱心に社會問題の研究をなし、今や宗教界の新人として靈肉の兩方面に多年の抱負を實地に試みんとして居る。師は東禪寺住職たるの外、曩に四十一地區劃整理委員たるを振出しに、現今山谷町會長、新正會常任幹事東洋大學評議員、淺草各宗同盟會幹事等を兼務し最も熱心に活動を續けて居る。

原籍地　山形市七日町四五六
駒場郵便局長　安藤市之輔
現住所　東京府荏原郡目黒町上目黒五六四

明治廿五年七月二日生。大正二年陸軍士官學校卒業。陸軍歩兵少尉任命。第七師團旭川歩兵第二十七聯隊附となり、其後累進して大尉となる。大正十四年十月願に依り豫備役に編入され、本年東京駒場郵便局長任命。男一人、女二人あり。趣味は運動、競技の方面、書を能くす。

原籍地　最上郡新庄町
三菱銀行員　角舘正男
現住所　東京府北豐島郡西巣鴨町宮仲二二三九

氏は明治三十一年四月生れで、新庄中學校教諭角館純一郎氏の長男。新庄中學卒業後、東京府高千穗高等商業學校に入り、首尾よく同校を卒業し、直に三菱銀行に入り今日に至る。目下貸附係勤務。氏に女子一人あり。

原籍地　飽海郡酒田町上臺町五六
下宿業　池野文男
現住所　東京市神田區小柳町二九

明治卅七年五月十八日生。父君文七氏は大震災後、即ち大正十二年十二月廿七日、在の場所に下宿業を開業されたが、不幸中道にして病沒したので、氏は若年乍ら母君を助け、下宿業を繼續し以て今日に至る。妹(一九)弟(一六)一人あり。

原籍地　米澤市成島町五八一〇
洋服裁業　渡部力藏
現住所　東京市麴町區紀尾井町六

明治廿九年十月廿一日生。
大正六年十月に上京、佐藤羅紗店洋服部に勤務し、後陸軍九段偕行社洋服部に轉じ充分斯業に對する經驗を得た。明治十二年九月十二日、震災後間もなく考ふる所ありて自宅に獨立開業し、以て今日に至り逐日業務發展しつゝある。

原籍地　山形市十日町

時計商　**蜂屋帝吉**

現住所　東京市下谷區上野花園町一八
電話下谷六三七九番

氏は明治廿四年八月八日生。
舊姓藤田、藤田長兵衛氏の二男として生れたのであるが、幼い日同市十日町に在る蜂屋五郎兵衛氏に請はれて養子となつたものである。
今年三十六歳の働き盛りで、氏が獨立して時計商を開店したのも亦今、十五年に入つてからである。卽ち家郷を離れて現住地に分店獨立し、直に鐵道省、郵船會社、市内及地方の重なる諸官衙會社の御用商人として店員數十名と共に絶えず活躍して居るので、營業は日增しに盛大に赴きつゝある。
極めて多趣味、殊に大弓、謠曲に秀づ。三男二女あり。

原籍地　東置賜郡高畑町高畑二三五八

實業家　**加地利夫**

現住所　東京市芝區白金三光町三七二
電話高輪六八〇八番

氏は明治三年十月十五日生。
高橋元治氏の四男で先代藤兵衛氏の養子となり、大正九年家督を相續した。
郷里に於て中等教育を終へ、東京高等商業學校に入り、明治廿六年同校を卒業。
同校を出づるや、直に三井物産會社に入り累進して倫敦支店長となり、前後八年間同地に滯在し、備に世界經濟の大勢と、實地の商取引とに慣熟して歸朝した。
刻下は三井物産株式會社、大正火災保險株式會社監査役の榮職にあり。
極めて圓滿な好箇の紳士である。
夫人屋壽子との間に二男あり。

原籍地　山形市香澄町

丸之內新聞主幹　**杉原三郎**

現住所　東京市赤坂區青山原宿一七〇ノ一六

別號林三郎。

丸之內新聞主幹として近時縱橫に其敏腕を發揮して居る林三郎氏（本名杉原三郎氏）は本縣山形市香澄町出身である。

氏は嘗て新聞記者たり。出版業者たり。社會主義倫理學の研究者たり。現在は丸之內新聞主幹として其經營に從事す。

氏の著書の主なるもの左の如し。以て其の近況を知るに足る。

人格主義の否定
社會主義の價値哲學
よき新聞記者
新聞雜誌操縱論
小新聞經營法

原籍地　飽海郡內鄉村

辯護士　**後藤助藏**

現住所　東京府荏原郡駒澤町野澤七八

事務所　東京市日本橋區吳服町八
電話大手五七一七番

氏は明治卅三年七月四日生。

鄉里內鄉村で小學敎育を卒へ、其後六ヶ年間鄉里に於て事業に從事した。

大正九年上京。

通信敎授大日本國民中學會から選拔され、同年四月日本大學法律科に入學。

大正十二年卒業、翌十三年受驗して直に辯護士、判檢事たるの資格を獲得し、鮮かな秀才振りを遺憾なく發揮した。

其後裁判所に勤務し、大正十四年三月退職、辯護士を開業し以て今日に至る。

前途最も多望な法曹界の新人である。

原籍地　西村山郡西五百川村松程

會社員　鈴木千代太

現住所　東京府豐多摩郡代々幡町代々木本村七八八

氏は明治十七年四月生。
弱冠十四歳の時志を立てゝ上京、東京開成中學校に入り明治卅六年同校を卒業するや直に實業界に入る。
嘗て太平洋炭礦會社にあり、又北海道方面に於て實業に從事した。
現今は東京丸ビル七二八區木村商事株式會社々員として石炭販賣に從事して居る。
男子三人あり。

原籍地　東村山郡山邊町

滕寫版製造販賣業　大江孝

現住所　東京市下谷區御徒町二ノ一〇　電話下谷一六一二番

氏は慶應三年十二月生れ、父君は利兵衛氏と云はる。氏は實にその長男にして當年とつて六十歳。然も元氣壯者を凌ぐの慨あり現に滕寫版製造販賣所大氣堂を一手に支配しつゝあり。
氏が立志の始りは明治廿三年である。出京するや考ふる處あり、卅六年時勢に先んじて滕寫版販賣業を興したが、今日の滕寫版の需要を二十年の昔に察した氏の先見の明愕くべきものがある。現在に於て大氣堂と云へば斯界誰知らぬなき老舗である。父君利兵衛氏は今日より八年前氏の隆盛なる事業に安心し、尚將來の活躍を祈つて遂に逝かれた。
氏には二男二女あり。

原籍地　鶴岡市十三軒町一五

書道研究　**吉田茂松**（號苞竹）

現住所　東京市麻布區本村町一一六

氏は明治廿三年十二月廿日生、故日下部鳴鶴高弟の一人である。

大正八年より東京に於て書道研究會を創立し、書道研究の傍ら後進の指導をなす。

目下『碑帖大觀』（毎月一回發行）の編輯に從事して居る。

氏は書道研究を以て天職とし、之を以て趣味とせられて居る。最近故加藤高明首相墓誌の揮毫をされたのが、書家としての氏の價値を充分看取することが出來る。

氏は書道奬勵協會審査員、日本美術協會委員たり。

原籍地　最上郡新庄町

南洋商會常務
南澤倉庫取締役　**堤林數衛**

現住所　東京市小石川區水道端一ノ二七
電話小石川二八八八番

氏は明治六年十二月生にして、本縣が產んだ海外雄飛者中の錚々たるものゝ第一人者である。

氏は少壯の際、山形監獄に勤務した。然も鬱勃として燃ゆるが如き氏の壯心は山形市の如き蕞爾の地に跼蹐せしめず、氏を驅りて臺灣に渡航せしめた。之れ氏が今日の地位を得る第一歩である。

臺灣からジャワ、ボルネオ等の南洋は一葦帶水とも云ふべく、氏は此方面に事業を開始すべく南洋商會を創立し、而して山形市の財閥渡邊家と結んで、着々其事業を發展せしめ、今では同商會は南洋方面取引の先驅者として、果た又唯一の權威者として內外共に認められつゝある。

士族堤林繁美氏男、家族は男四人女三人。長女ツヤ子は山形縣人高澤尙美氏に嫁せり

原籍地　山形市七日町新道一二〇

建築請負
木材販賣業　**田崎爲吉**

現住所　東京市下谷區上車坂町一九　電話下谷三五八五番

氏は幼より實地修業の人である。卽ち鄉里山形に於て家具製作請負販賣を營み、大正九年住宅拂底の折、山形住宅信用組合を組織して理事となり建築業を兼營中、偶々東都の大震災に遭遇し、卽ち縣當局の推選にして帝都に山形縣罹災者後援會場を請負ひ建築せるを機とし、山形地方の各職工を雇ひ、復興應援の爲大正十三年一月現住所に營業を開始し今日に至れるが、氏の熱心と機敏とは氏の事業をして逐日隆盛ならしめつゝあり。氏は他に左の重職を占む。以て氏の社會的地位如何を知るに足る。

東京土木建築同業組合第四部理事。
下谷區上車坂青年團理事。
帝國稅務相談會幹事。
明治十四年二月誕生。

原籍地　山形市香澄町小鯨八

醫　**吉村巖**

現住所　東京市牛込區天神町八三

氏は山形市刀圭界に信用厚かつた故春柳氏の長男で、明治廿二年十二月五日の出生である。

明治卅七年三月山形市第一尋常高等小學校卒業、同四十二年三月山形縣立山形中學校卒業、同四十四年九月仙臺醫學專門學校入學、大正五年五月東北帝國大學醫學專門部卒業。之れが同氏學歷の一班である。

卒業後、同年六月山形私立病院濟生館に勤務したが、大正八年三月東京淺草明治病院に轉勤し、同十年九月現在の場所に開業して今日に到る。

夫人やの子(二六)

氏に一男一女あり。

原籍地　西村山郡左澤町

日本畫家　**菊地啓三郎**

現住所　東京市下谷區谷中眞島町一　電話下谷五九七三番

號華秋。日本畫壇の一異彩である。明治廿一年五月廿五日長三郎氏四男として左澤町に生る。その始め、山形市八日町黑木華鄉先生に繪を學び、明治四十年六月上京、帝室技藝員、帝國美術院會員川合玉堂の門に入り、爾後累進して今日の盛名を恣にするに至れり。

東京勸業博覽會に於て三等賞銅牌を受け、大正四年米國桑港萬國博覽會に於て二等賞銀牌を受く。

文部省美術展覽會に入選したる事五回。帝國美術院展覽會に入選したる事二回。聖德太子奉讃會展覽會に入選。その他各展覽會にて受賞二十三回。現今は川合玉堂社中下萠會の委員、日本畫會委員等の重職に在る。

尙今秋の帝展には大作『占の井』を出品し、好評嘖々たりき。

原籍地　鶴岡市

菓子商　**神尾元次郎**

現住所　東京市芝區田町四ノ一三

氏は安政五年十一月生。

明治十五年上京、當時より菓子店を營み以て今日に至る。

原籍地　最上郡新庄町馬喰町

洋服裁縫業　**河田寅藏**

現住所　東京市麴町區三番町六九

氏は明治十一年十一月生で、新庄町早坂傳吉氏次男。

新庄高等小學校卒業後、明治卅六年上京、河田洋服店に入り洋服裁縫業を研究したが、同三十六年舊主の後を繼いで河田姓となり現在の場所に營業して今日に至る。

永年の老舗と、氏の熟練した手腕とに依つて營業日增し繁昌して居る。

原籍地　米澤市

工學博士　五十嵐秀助

現住所　東京府荏原郡大崎町上大崎長者丸二七八
電話高輪五〇番

正四位勳三等、工學博士、五十嵐秀助氏は米澤藩士德田久三郎氏三男にして安政五年十二月生れ、明治十年四月、同藩士五十嵐正知氏の養子となる。明治十五年の東京帝國大學工科大學出身にして直ちに工部省に出仕し、廿三年在官のまゝ私費を以て電信電話視察の爲米國に留學し、翌年六月歸朝、直ちに遞信省技師に任ぜらる、廿四年再び東京郵便電氣學校教官となり、宮內省電氣工事監督を囑託せらる。廿六年東京郵便電信建築課長に轉じ、翌年東京交換局長に進み、卅二年三月工學博士を授けられ從五位勳三等に叙せらる。卅三年官命を帶び電氣電話の視察に歐米各國に派遣さる。

爾來遞信省通信局工務課長、農商務省特許局技師、內匠寮御用掛たり、殊に工務課長時代にはとみにその見解に基き東京横濱等の電話工事の基礎を定め、尙光力本位電氣事業改正、市區改正等の委員に擧げられしが、大正六年官を辭して支邦民國漢口、武昌の電話改善事業を引受け九年完成せり。趣味として玉突、圍碁、謠曲に秀でらる。家族は長女さだ子、二女梅子、四女幸子等。

原籍地　東田川郡泉村

官吏　野口久一

現住所　東京市京橋區佃島四六

氏は明治卅二年十月十二日生。

山形縣立鶴岡工業學校出身。

更に東京商工學校商業科を卒業した。

其後專修大學計理科に入り、同科の研究に從事す。

鶴岡工業學校卒業後直に農商務省試驗所に入所し、大正八年まで續いたが、氏は此の職務を忠實に勤め、傍ら東京商工、專修大學等で研學したのであるから、氏が努力、奮鬪の人であることは疑なく、更に他日の玉成を期待せざるを得ない。

大正十年陸軍糧秣本廠工場課に勤務、以て今日に至る。

原籍地　北村山郡楯岡町三七一二

宗教家　**長谷川白圓**

現住所　東京府荏原郡大崎町上大崎七八四

吾が郷土出身の宗教家白圓師。明治九年四月誕生。
氏は明治卅三年現大正大學前身宗教大學の卒業である。
同卅六年芝中學の前身第一教校教授及び幹事に任命され、明治卅八年東京府下戒法寺住職となる。
大正五年宗教大學教授となる。
同十一年淨土宗社會部長となる。
然して後十二年山形縣楯岡町本覺寺住職となり、更に現在は權僧正准司教講師にして、淨土宗々會議員特命布教師たり。
圓滿の人格の持主で常に活動的な人。

原籍地　西置賜郡平野村九之本

廣告代理業　**土屋常次**

現住所　東京市赤坂區青山南町六ノ一八

氏は明治十五年一月十五日生で、農武助氏の三男。
廿一歳にして其年の五月に上京。
目黒の大日本麥酒會社に約二ヶ年、上野藥學士の助手として麥酒の檢定に從事し、
其後鷹石油株式會社に轉じ、約二ヶ年勤務したが、同社を辭して廣告代理業正路喜社に入つた。
爾來同社に長く勤續し、社の內外信用甚だ厚く、現今は同社重役として日々社務に鞅掌して居る。
一子あり、十六歳で早實三年生。
趣味は小鳥の飼育。

原籍地　東置賜郡高畑町

牛肉販賣業　三浦信光

現住所　東京府南葛飾郡隅田町一一七八

氏は明治廿二年二月九日生。

市松氏長男。

氏は最も活動的、有爲果敢な人物である。明治卅五年に東京市本所區方面で諸會社御用牛肉販賣店を開業し、營業頗る發展したが、後故あり現住所に移轉引續き牛肉販賣業に從事し、營業日一日繁昌に赴きつゝある。

氏は本業の傍ら左の公職を勤めて居る。殊に政治方面にも多大の趣味を感じて居る。

梅若町會幹事長。

憲政會隅田支部理事。

向島獵友會幹事。

原籍地　山形市宮町二〇五九

アルミニウム食器製造業　佐藤儀八

現住所　東京府南葛飾郡向島隅田町善左衛門町三七九

電話墨田四六〇七番

氏は明治廿三年九月五日生。

佐藤安治氏長男。

大正三年廿何歳の年少氣鋭の際、東京方面で一旗揚ぐるべく決心して上京し、其後種々劃策する所あつたが、アルミニウム食器製造業の最も有望なるに着目し、大正九年から向島隅田町方面に同工場を設立し孜々として之が經營に從事し、今や少からぬ好成績を擧げて居る。

然も此間、多忙な事業の餘暇を竊みては南洋方面を視察し、實業上の智識を豐富に收めて居る。

氏は更に積善會副會長の公職にあり。